

WISeNET

Network Camera

Aide en ligne

XND-6080R/XND-6080RV
XNV-6080R/XNV-6080RS
XND-K6080N/XND-6080V
XND-6080/XNV-6080
KND-2080RN

ビデオprofile

ビデオprofileを追加したり削除してProfile設定を変更することができます。ビデオ解像度、フレームレート、Codecなどを「ビデオprofile」にすでに設定した後、環境と状況によってユーザーが望むProfileに変更して映像をストリームしたり再生することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックして設定を適用してください。

ビデオプロファイル接続ポリシー

Profile設定が変更された時、既存のProfileに映像を出力し続けるか変更されたProfileに映像を出力し続けるかを設定することができます。

[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択すると、Profile設定を変更しても既存のProfile設定に映像を出力し、再度ウェブビューアーにアクセスした時、変更されたProfileに映像を出力します。Profile設定を変更して再度ウェブビューアーにアクセスするまでは、[ライブ]画面にオレンジ色の枠が表示されます。[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択しないと、Profile設定を変更した時にすぐ変更されたProfileに映像が出力されます。

ビデオprofile

製品の使用環境と状況によってビデオのProfileを選択することができます。初期値に提供されるProfileの他に新しいProfileを追加したり削除することができます。Profile別にCodec、Profileタイプ、解像度、フレームレート、最大ビットレート、目標ビットレート、ビットレート制御、マルチキャストなどを設定することができます。

Profileリスト

初期値に提供されるProfileのリストとユーザーが追加したProfileのリスト両方とも表示されます。

ビデオprofile追加

1. [追加]ボタンをクリックします。Profileリストで新しい項目が追加されます。
2. [名前]フィールドにProfile名を入力します。Profileリストに入力した名前が表示されます。
3. [Codec]、[Profileタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細を設定します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
5. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。新しいProfileが追加されます。

ビデオprofileの設定変更

1. Profileリストで詳細設定を変更するProfileを選択します。
2. [Codec]、[プロファイルタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細設定を変更します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileの設定が変更されます。

ビデオprofile削除

1. Profileリストで削除するProfileを選択します。

2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileが削除されます。

名前

Profileリストで選択したProfile名が表示されます。新規でProfileを生成する時、Profile名を入力することができます。

Codec

Profileに適用するCodecを選択します。選択したCodecタイプによって、Profile設定の詳細が異なります。

プロファイルタイプ

適用するProfileタイプを選択します。選択したProfileタイプは、Profileリストの[タイプ]カラムに表示されます。選択したCodecタイプによって表示される設定項目が異なります。

- 基本プロファイル：カメラの映像をライブにストリームする時、適用される基本Profileです。Profileリストの[タイプ]に「Default」と表示されます。
- E-mail/FTP profile：イベントが発生すると、キャプチャー画面をE-mailとFTPサーバーに伝送する時に使用するビデオProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Event」と表示されます。[Codec]を「MJPEG」に設定した場合のみ、E-mail/FTP profileオプションが表示されます。
- 録画Profile：SDカードまたはNASに映像を録画する時、適用するProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Record」と表示されます。
- デジタルPTZ Profile：PTZモーションをデジタルに制御する時、使用するProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「DPTZ」と表示されます。CodecをH.264もしくはH.265に設定した場合のみ、デジタルPTZ Profileオプションが表示されます。
- フレームレート固定プロファイル：映像のフレームレートを一定レベルで保障する時、適用するProfileです。[Codec]を[H.264]または[H.265]に設定した場合のみ、「フレームレート固定プロファイル」オプションが表示されます。

音声入力

カメラが内蔵マイクを持っているか外部マイクを接続した場合、カメラの外部音が映像に入力されるように設定することができます。

[ライブ]画面のマイクとスピーカー機能を有効にするには、[音声入力]を[有効]に選択する必要があります。

ATCモード

ATC(Auto Transmit Control)モードは、ネットワーク帯域幅の変化量によって映像の属性を変更して伝送量を調整します。伝送量の調整方法は、ATCモードによって異なります。

- 未使用：ネットワーク帯域幅が変化してもビデオ伝送量を一定維持します。
- 有効 - フレームレート制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、フレームレートを変更して伝送するデータ量を調整します。
- On - 圧縮制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、伝送するデータの圧縮率を変更して伝送するデータ量を調整します。圧縮調整する場合、画質が低くなることがあります。

- On - イベント(MD) : モーション検知イベントが設定されている場合、使用できるモードです。モーション検知イベントが発生してネットワーク帯域幅が変化する場合、フレームレートを変更してデータ量を調整します。モーションが検知されない場合、最小限のフレームだけを出力して帯域幅使用を節約します。

感度

ネットワーク帯域幅変化量の反映速度を調整します。ATC感度が最高の場合に反映速度が最も早く、最低の場合に反映速度が最も遅いです。

ATC感度は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

上限

ネットワーク帯域幅変化量によってビデオ伝送量を変更する時、ある程度まで属性を変更するかATCモードの上限値を設定します。ATCモードを使用しなかった時を100%と仮定すると、10~50%に値を設定することができ、設定された値の以下にはビデオ伝送量は変更されません。

この時、伝送量を減らし過ぎると画面が点滅する場合があるため、本設定値を調整して限界設定値を調整します。

ATC上限は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

i 参考事項

- ATCに対応するカメラで構成された環境でのみ、ATCを有効にすることをお勧めします。
- ネットワーク帯域幅の変化量が急激な環境ではATC感度を[最低]に設定してください。
- ネットワーク環境が不安定の場合、画面が点滅することがあります。

クロップエンコーディング クロップエンコーディングは、全画面で選択したエリアだけを切って[Profile設定]で設定された解像度に合わせて出力します。クロップエンコーディング設定エリアより小さいサイズの解像度のみ設定することができます。現在、設定中のProfileにクロップエンコーディングを適用するには、[有効]を選択します。

トリミング領域設定

1. クロップエンコーディングを[有効]に設定した後、[エリアを設定]ボタンをクリックします。
2. [トリミング設定領域]のプレビュー画面でマウスをドラッグしてエリアを設定します。エリアを16:9比や4:3比に合わせて設定するには、それぞれ[16:9]、[4:3]を選択し、比率に関係ないエリアを選択するには、[手動]を選択します。
3. エリア設定を完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

i 参考事項

- [トリミング設定領域]でユーザーが任意で範囲を指定した場合、ユーザーが指定した範囲で出力解像度と最も近い解像度に出力します。
- [映像&音声]>[カメラ設定]>[特別設定]>[DIS]設定を変更すると、トリミング設定領域が異なる場合があります。DIS設定を変更する時、クロップエンコーディングのエリアを再設定してください。

Profile設定

現在、設定中のビデオprofileの詳細を設定します。

解像度

カメラ映像の解像度を設定します。

i 参考事項

- 高解像度の映像を問題なくストリームするためには、Chromeでウェブビューアーにアクセスすることをお勧めします。

フレームレート

1秒当たりのフレーム数を設定します。

[映像&音声]>[カメラ設定]>[センサー]で選択したフレームレート値によって、設定できるフレームレートの範囲が異なります。

最大ビットレート

[ビットレート制御]が[VBR]の場合、映像の最大ビットレートを設定します。

ターゲットビットレート

[ビットレート制御]が[CBR]の場合、伝送する映像データの量を設定したターゲットビットレートに固定して映像を伝送します。

詳細

Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に設定した場合には、すべての詳細設定項目が表示されます。Profileの[Codec]を[MJPEG]に選択した場合は、[エンコーディング優先順位]項目のみ表示されます。

ビットレート制御

映像データ量をどう調整するか設定することができます。

- CBR**：固定ビットレート(Constant Bitrate)は、フルフレームのデータを一定サイズに固定して伝送するタイプです。CBRを選択すると、ターゲットビットレートを設定して伝送するデータのサイズを設定します。CBRの場合、固定的なデータサイズをもつため、全体的なシステムのデータサイズを予測しやすく、安定的にシステムを運用することができます。
- VBR**：可変ビットレート(Variable Bitrate)は、フレームのデータサイズを固定せずに最大ビットレート内で映像を伝送するタイプです。VBRは、画質を維持しながらストレージスペースの容量や帯域幅を効率的に使用することができるが、映像が急に複雑になったり大きいモーションがある場合ネットワークに負担がかかります。

i 参考事項

- ビットレート制御を「CBR(固定ビットレート)」に設定してから画質優先モードを選択した場合、画面の複雑度によって設定されたビットレートで最大限に画質を保障するために実際伝送されるフレームレートが設定されたフレームレートと異なる場合があります。

エンコーディング優先順位

映像データ量がターゲットビットレートの値を超える時、フレームレートと画質中に何を優先順位としてエンコーディングするか設定します。

Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[フレームレート]と[圧縮]の中で選択することができます。[フレームレート]を優先順位に設定すると、フレームレートを最大限に保障するが画質は低くなる場合があります。逆に[圧縮]を優先順位に設定すると、画質は保障するが抜け落ちるフレームが発生して映像が切れたり不自然になる場合があります。Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[エンコーディング優先順位]は[ビットレート制御]を[CBR]に設定した場合のみ有効となります。

Profileの[Codec]が[MJPEG]の場合、[フレームレート]と[ビットレート]の中で選択することができます。

GOV長

GOV(Group of Video)はH.264/H.265のビデオ圧縮のための映像フレームの集合でIフレームから次のIフレームまでのフレーム集合を意味します。GOV内には、IフレームとPフレームという2タイプのフレームがあります。Iフレームは圧縮の基本となるフレームでキーフレームとも呼ばれ、完全な一枚の画像データを持つ独立的なフレームです。Pフレームは前のフレームを基準に変更された部分の情報のみを持っているため、映像データ量が少ないです。したがって、GOV長が長いほどIフレーム数は少ないため映像データ量も少なくなるし、GOV長が短いほどIフレームが多くなるため映像データ量も多くなります。GOV長の最大値は[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。

H.264 CodecやH.265 Codecで録画ファイルを設定した場合、GOV長はframerate/2になります。

Profile

ProfileのCodecが[H.264]の場合のみ、メニューが有効となります。Profileは圧縮する時に使用する様々な圧縮技術を組み合わせた集合とも言えます。ハンファテックウィンのカメラで対応するProfileは[Baseline]、[Main]、[High]です。BaselineでHighに行くほど圧縮性能が高くなって画質が良くなるが、圧縮する時と圧縮を解凍する時にシステムのリソースが多く使用され再生デバイスに負荷がかかります。

エントロピー符号化

エントロピー符号化は、シンタックス(Syntax)の統計を用いた可変長コーディングで無損失の圧縮タイプです。

CAVLC (Context Adaptive Variable Length Coding)とCABAC (Context Adaptive Binary Arithmetic Coding)の2タイプを提供します。但し、Baseline Profileの場合にはCAVLCタイプのみ使用できます。

- CABAC：圧縮率が高いが、データの処理過程が複雑でシステムリソースを多く使用します。
- CAVLC：CABACに比べて圧縮率が低いが、データの処理過程がシンプルでシステムリソースを少なく使用します。

Smart codec

Smart codecの使用有無を設定します。Smart codecは、映像でユーザーが好むエリアは圧縮率を減らして高画質で出力し、その他の部分は圧縮率を上げて標準画質に出力して全体の映像データサイズを減らすハンファテックウィンの独自技術です。Smart

codecは[ビットレート制御]が[CBR]の時のみ有効になります。

Smart codecのROI領域は、[映像&音声]>[Smart codec]で設定することができます。

ダイナミックGOV

ダイナミックGOV機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。

ダイナミックGOVは、映像状況によってGOV長が最小GOV長の設定値から最大ダイナミックGOVの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像ではGOVが[ダイナミックGOV]でユーザーが設定した値に動作して全体映像のビットレートが短縮されます。モーションを検知すると、その直後に1フレームが出力され、この後モーションがなくなるまでGOVがGOV長の設定値に動作することになります。

ダイナミックGOVは[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

- 映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。入力値の範囲は[GOV長]の横に表示されます。[GOV長]に入力した値が最小値になり、最大値は480で[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。

i 参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声]>[ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

ダイナミックFPS

ダイナミックFPS機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。

ダイナミックFPS(Dynamic FPS)は、映像状況によって最小FPS設定値からフレームレートの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では、FPSが最小FPSの設定値に動作することになって全体映像のビットレートが短くなります。モーションを検知すると、FPS値を増加させて動作します。

ダイナミックFPSは[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択して[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

最小FPS

ダイナミックFPSが動作する時、適用する最小FPS値を入力します。

i 参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声]>[ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

マルチキャスト

マルチキャストは、一台のカメラで発生した映像を接続された数台のデバイスに送る時に使用します。現在、設定中のProfileでRTSP (Real Time Streaming Protocol) プロトコルの使用有無を設定して詳細を入力します。

マルチキャスト(RTSP)

RTSPプロトコルを使用して映像を伝送するには、[有効]を選択します。

IPアドレス

IPv4網でアクセスできるIPv4アドレスを入力します。マルチキャストアドレスを224.0.0.0～224.0.0.255に設定する場合、特定環境でマルチキャストができなくなる場合があります。問題が発生すると、マルチキャストアドレスを変更して使用してください。

ポート

映像伝送を制御するポートを設定します。マルチキャストRTSPポートの範囲は1024から65534で、範囲の中で偶数にしてください。(但し、3702ポートは使用できません。)

TTL

RTSPパケットのTTLを設定することができます。TTL値は0から255までの数のみ入力することができます。

Écran de lecture

Vous pouvez importer et lire une image enregistrée à partir d'une carte SD ou d'un NAS. Lorsque vous cliquez sur le bouton  sur l'écran, l'écran enregistré apparaîtra. Une barre de temps apparaîtra au bas de l'écran de lecture et une image enregistrée selon le calendrier défini ou par un événement s'affichera sur la barre de temps. Vous pouvez rechercher une image enregistrée par type d'événement ou par date et la capturer ou l'enregistrer sur un ordinateur.

Vous pouvez passer à l'écran de direct, à l'écran de lecture ou à l'écran de configuration en cliquant sur les boutons situés en haut.

-  (Direct) : Vérifiez l'image en direct capturée par la caméra et contrôlez les différentes fonctions de la caméra.
-  (Lecture) : recherchez et lisez une image enregistrée à partir d'une carte SD ou d'un NAS.
-  (Configuration) : changez les réglages de la caméra

Remarque

- Une vidéo doit tout d'abord être enregistrée sur la page [Direct] avant de pouvoir être lue.
- S'il n'y a pas de connexion à une carte SD ou un NAS, la fonction de lecture ne peut pas être utilisée.
- En vous connectant à la visionneuse web via Chrome, la fonction d'écran de lecture d'enregistrement peut être utilisée en toute sécurité.

Icônes de lecture

Les icônes se trouvant en bas de l'écran de lecture permettent les fonctions suivantes :

Icône	Description de la fonction
 Plein écran	Afficher la lecture en plein écran. Pour revenir à la taille précédente, cliquez sur le bouton  en mode plein écran ou appuyez sur la touche [Echap] du clavier.
Option de taille	La taille passe à la taille suivante chaque fois que vous cliquez dessus. •  (Incorporer) : Affichez l'image de la caméra dans la même taille que la fenêtre d'affichage du navigateur Web. •  (Taille d'origine) : Visualisez l'image de la caméra à sa véritable résolution. •  (Ratio d'aspect) : Affichez l'écran de lecture dans le navigateur Web en effectuant un zoom avant ou arrière tout en conservant le format de l'image de la caméra.
 Saisir	Capturez et enregistrez une image enregistrée en tant que fichier image PNG. Un fichier d'image capturée est enregistré dans le chemin d'enregistrement par défaut de chaque navigateur.

Icône	Description de la fonction
 Préc.	Passer à l'image précédente.
 Lecture / Suspende	Lecture ou pause sur une image.
 Suiv	Passez à l'image suivante.
Vitesse de lecture	Réglez la vitesse de lecture de l'écran.
 Haut-parleur	Réglez le volume audio de l'écran de lecture.  Cliquez sur le bouton pour activer l'audio et ajuster le volume.

Lecture d'une image enregistrée via la recherche d'événement

Vous pouvez rechercher une image enregistrée par type d'événement. De plus, si l'heure sur le système de caméra a été ajustée et a donc entraîné un chevauchement du temps, il est possible de rechercher la vidéo enregistrée pendant cette heure de chevauchement.

Pour effectuer une recherche par événement et lecture

1. Cliquez sur le bouton Montrer sur l'écran de lecture. Si une vidéo est prise le jour de la recherche, elle sera affichée sur la barre de temps.
2. Pour effectuer une recherche par type d'événement, cliquez sur le bouton [Tout] en haut de la barre de temps et sélectionnez un événement souhaité.
3. Pour rechercher des images enregistrées pendant la période de chevauchement, sélectionnez une section qui se chevauche.
4. Cliquez sur le bouton [Appliquer] pour afficher les événements recherchés sur la barre de temps.
5. Cliquez sur le bouton Lecture.
6. Pour arrêter la lecture, cliquez sur le bouton Pause.

Lecture d'une image enregistrée via la recherche par tranche horaire

Recherchez une image enregistrée en sélectionnant une date et une heure dans le calendrier. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Auj.] dans la barre de temps, la recherche portera exclusivement sur les images enregistrées le jour même.

Pour effectuer une recherche par heure et lecture

1. Cliquez sur le bouton Montrer sur l'écran de lecture. Si une vidéo est prise le jour de la recherche, elle sera affichée sur la barre de temps.
2. Cliquez sur une date dans la barre d'heure, sélectionnez la date désirée dans le calendrier et réglez l'heure de début et de fin.
 - Si vous sélectionnez [Tout le temps], l'heure de début et de fin sera réglée automatiquement sur une plage comprise entre 00:00:00 à 23:59:59.
3. Cliquez sur le bouton [Appliquer].
4. Cliquez sur le bouton Lecture. La vidéo de l'heure sélectionnée sera lue.

- Si la vidéo est déjà en cours de lecture, l'heure d'enregistrement de la vidéo en cours est affichée.
- Vous pouvez rembobiner ou avancer rapidement la vidéo et modifier la vitesse de lecture si nécessaire.
- Cliquez sur la flèche gauche pour revenir en arrière d'une image. Cliquez sur la flèche vers la droite pour avancer d'une image.
- Cliquez sur le bouton Vitesse de lecture pour changer la vitesse à 1x, 2x, 4x, 8x, -1x, -2x, -4x ou -8x. Lorsque la vitesse change, vous pouvez régler la vitesse de lecture souhaitée.
- Déplacez le bouton le long de la barre de temps pour lire la vidéo de l'heure désirée.

Sauvegarde d'une image recherchée Pour sauvegarder une image enregistrée, sélectionnez une image enregistrée et cliquez sur le bouton [Sauvegarde].

Pour sauvegarder une vidéo recherchée

1. Cliquez sur le bouton [Exporter] sur une scène en cours de lecture.
2. Définissez l'heure de début et de fin de la sauvegarde.
3. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer].
4. Lorsque la fenêtre d'enregistrement s'affiche, sélectionnez un chemin d'accès pour enregistrer la sauvegarde et cliquez sur le bouton [Enregistrer].
5. Les données de sauvegarde de l'intervalle de temps sélectionné seront créées.
6. Cliquez sur le bouton [Appliquer].

Profil vidéo

L'utilisateur peut ajouter ou supprimer un profil vidéo et modifier les propriétés du profil. Définissez à l'avance le profil vidéo, la fréquence d'images et le codec en tant que « Profil vidéo », puis modifiez le profil vidéo pour diffuser ou lire une image. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Politique de connexion du profil vidéo

Une fois le réglage profil est modifié, vous pouvez définir la sortie d'une image avec le profil précédent ou avec le profil modifié.

Lorsque [Reste connecté en cas de modification du réglage du profil] est sélectionné, l'image est délivrée conformément au réglage de profil précédent même si le réglage du profil a été modifié. Lorsque l'écran Web est reconnecté, l'image est délivrée avec le profil modifié. Lorsque [Reste connecté en cas de modification du réglage du profil] n'est pas sélectionné, l'image est délivrée avec le profil modifié immédiatement lorsque le réglage profil est modifié. Les bordures orange apparaîtront sur le bord de la vue en direct de l'écran [Surveillance] jusqu'à ce que vous vous connectiez à nouveau à l'écran Web après avoir modifié le réglage profil.

Profil vidéo

L'utilisateur peut sélectionner un profil vidéo en fonction de l'environnement de service et des circonstances d'utilisation du produit. En plus des profils fournis par défaut, l'utilisateur peut ajouter un nouveau profil ou en supprimer un existant. Vous pouvez définir le codec, le type de profil, la résolution, la fréquence d'images, le débit binaire maximal, le débit binaire cible, le contrôle de débit binaire et la multidiffusion pour chaque profil.

Liste des profils

La liste des profils est fournie par défaut. Tous les profils ajoutés par l'utilisateur seront également affichés.

Ajouter un profil vidéo

1. Cliquez sur le bouton [Ajouter]. Un nouvel élément sera ajouté à la liste des profils.
2. Entrez le nom du profil dans le champ [Nom] . Le nom saisi apparaîtra dans la liste des profils.
3. Définissez les éléments de profil, y compris le [Codec], le [Type de profil] et la [Résolution].
4. Cliquez sur le bouton [Appliquer] au bas de la page.
5. Lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK]. Le nouveau profil sera ajouté.

Modification d'une propriété de profil vidéo

1. Sélectionnez le profil que vous souhaitez modifier dans la liste des profils.
2. Modifiez les paramètres relatifs, y compris le [Codec], le [Type de profil] et la [Résolution].
3. Cliquez sur le bouton [Appliquer] au bas de la page.
4. Lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK]. Les paramètres du profil sélectionné se modifieront.

Suppression d'un profil vidéo

1. Sélectionnez le profil que vous souhaitez supprimer de la liste des profils.
2. Cliquez sur le bouton [Effacer].
3. Lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK]. Le profil sélectionné sera supprimé.

Nom

Le nom du profil sélectionné dans la liste des profils sera affiché. Vous pouvez entrer un nouveau nom de profil si vous créez un nouveau profil.

Codec

Sélectionnez le codec que vous souhaitez appliquer au profil. Le réglage profil peut varier en fonction du type de codec sélectionné.

Type de profil

Sélectionnez un type de profil à appliquer. Le type de profil sélectionné sera affiché dans la colonne [Type] de la liste des profils. Les éléments de configuration peuvent varier en fonction du type de codec sélectionné.

- Profil par défaut : C'est le profil par défaut appliqué pour diffuser une image de caméra en direct. « Default » s'affiche dans [Type] dans la liste des profils.
- Profil E-mail/FTP : Ce profil vidéo est utilisé pour envoyer l'écran capturé d'une image lorsqu'un événement est créé. « Événement » s'affiche dans [Type] dans la liste des profils. L'option Profil E-mail / FTP apparaît uniquement lorsque MJPEG est défini pour le Codec.
- Enregistrer profil : Ce profil est appliqué pour l'enregistrement d'une image sur une carte SD ou un NAS. « Enregistrement » s'affiche dans [Type] dans la liste des profils.
- Profil PTZ numérique : Ce profil est utilisé pour contrôler les mouvements PTZ. « DPTZ » s'affiche dans [Type] dans la liste des profils. L'option Profil PTZ numérique apparaît uniquement lorsque H.264 ou H.265 est défini pour le codec.
- Profil de verrouillage de trame : Il s'agit d'un profil appliqué pour garantir un certain niveau de vitesse d'enregistrement vidéo. Cette option Profil de vitesse d'enregistrement fixes' n'apparaît que lorsque [Codec] est réglé sur [H.264] ou [H.265].

Entrée audio

Lorsque l'appareil photo dispose d'un microphone interne ou externe connecté, vous pouvez définir des sons externes à entrer dans l'image.

Pour utiliser les fonctions Microphone et Haut-parleur sur la page de surveillance, [Activer] doit être sélectionné dans [Entrée audio].

Mode ATC

Le mode ATC (Auto Transmit Control) ajuste la quantité de données envoyées, en modifiant les propriétés de l'image en fonction des changements de bande passante du réseau. La méthode d'ajustement de la quantité envoyée varie en fonction du mode ATC.

- Désactiver : Une quantité fixe de données envoyées est maintenue même si la bande passante du réseau change.
- Activer - Contrôle de fréquence d'image : Si la bande passante du réseau change, vous pouvez ajuster la quantité de données à envoyer en modifiant la vitesse d'enregistrement.
- Activer - Contrôler la compression : Si la bande passante du réseau change, vous pouvez ajuster la quantité de données à envoyer en modifiant le taux de compression des données. Une modification du taux de compression peut dégrader la qualité de l'image.
- Activer - Événement (MD) : Ce mode peut être utilisé lorsqu'un événement de détection de mouvement est défini. Lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé et que la bande passante du réseau change, vous pouvez ajuster la quantité de données en modifiant la vitesse d'enregistrement. Si aucun mouvement n'est détecté, réduisez l'utilisation de la bande passante en produisant les images minimales.

Sensibilité

Ajuster la vitesse de réflexion des changements de bande passante réseau. La vitesse de réflexion est la plus rapide lorsque la sensibilité ATC est très élevée, tandis que la vitesse de réflexion est la plus lente lorsqu'elle est très faible.

La sensibilité ATC est activée uniquement lorsque [Activer - Contrôle de fréquence d'image] ou [Activer - Contrôle de la compression] est sélectionné pour le [Mode ATC].

Limite

Lorsque la quantité de transfert de données vidéo change en fonction de la quantité de changement de bande passante du réseau, définissez la limite du mode ATC en fonction de l'amplitude de changement que vous autoriserez pour la propriété. En supposant que le mode ATC n'est pas utilisé à 100%, cette valeur peut se situer entre de 10 à 50 % ; la quantité de transfert de données vidéo ne tombera pas en dessous de cette valeur.

Dans ce cas, une diminution trop importante de cette valeur peut provoquer le clignotement de l'écran. Par conséquent, vous devez ajuster le réglage de la limite en ajustant ce réglage.

La limite ATC est activée uniquement lorsque [Activer - Contrôle de fréquence d'image] ou [Activer - Contrôle de la compression] est sélectionné pour le [mode ATC].

Remarque

- Il est recommandé de n'utiliser le mode ATC que dans un environnement où toutes les caméras prennent en charge le mode ATC.
- Dans un environnement où la quantité de changement de bande passante du réseau est drastique, réglez la sensibilité ATC sur [Très basse].
- Un environnement réseau instable peut provoquer un scintillement de l'écran.

Encodage recadré

L'encodage recadré ne codant qu'une partie sélectionnée du plein écran et l'affiche selon la résolution définie dans le fichier [Paramètres du profil]. Seule une taille de résolution inférieure à la zone de réglage de l'encodage recadré peut être définie. Pour appliquer l'encodage recadré au profil actuel, sélectionnez [Activer].

Définir une zone de recadrage

1. Définissez [Activer] pour l'encodage recadré et cliquez sur le bouton [Définir zone].
2. Définissez la zone en faisant glisser la souris sur l'écran d'aperçu [Définir la zone de recadrage]. Pour régler la zone sur un rapport 16:9 ou 4:3, sélectionnez [16:9] ou [4:3]. Pour définir une zone souhaitée indépendamment du rapport, sélectionnez [Manuel].
3. Pour terminer le réglage de zone, cliquez sur le bouton [OK] .

Remarque

- Si [Paramètres de zone d'encodage] est réglé sur la plage désirée, la résolution la plus proche de la résolution de sortie dans la plage que vous avez définie sera affichée.
- Si vous modifiez le paramètre sous [Video & Audio]>[Réglage caméra]>[Spécial]>[DIS], la zone de recadrage peut changer. Si vous avez modifié le réglage du DIS, réglez à nouveau la zone d'encodage recadré.

Réglages profil

Définissez les détails du profil vidéo actuel.

Résolution

Définissez la résolution de l'image de la caméra.

Remarque

- Pour diffuser une image haute résolution en continu, il est recommandé de se connecter à l'écran visionneuse Web à l'aide de Google Chrome.

Vitesse d'enregistrement

Définissez le nombre d'images par seconde.

La plage des vitesses d'enregistrement disponibles varie en fonction de la valeur de la vitesse d'enregistrement sélectionnée dans [Vidéo et audio]>[Réglage caméra]>[Capteur].

Débit binaire maximal

Réglez le débit binaire maximal de l'image lorsque [Contrôle de débit binaire] est [VBR].

Débit binaire cible

Fixez la quantité de données d'image à envoyer si [Contrôle de débit binaire] est [CBR].

Avancé

Si [H.264] ou [H.265] est défini comme [Codec] pour le profil, tous les éléments de configuration avancés seront affichés. Si [MJPEG] est sélectionné comme [Codec] pour le profil, seul l'élément [Priorité d'encodage] sera affiché.

Contrôle de débit binaire

Définissez comment ajuster la quantité de données d'image.

- CBR: Le débit binaire constant est destiné à l'envoi de données en plein format d'une taille constante. Lorsque CBR est sélectionné, la taille des données à envoyer est définie en réglant le débit binaire cible. CBR a une taille de données constante, facilitant la prédiction de la taille des données pour l'ensemble du système, ce qui permet au système d'être exploité de manière stable.
- VBR: Le débit binaire variable Bitrate permet d'envoyer une image en respectant le débit binaire maximal, sans fixer la taille des données de l'image. VBR peut utiliser efficacement la capacité de l'espace de stockage ou la bande passante tout en conservant la qualité, mais si une image devient soudainement plus complexe, cela peut provoquer une tension sur le réseau.

Remarque

- Lorsque le Contrôle de débit binaire est réglé sur " CBR (Débit Binaire fixe) " et que le mode Priorité sur la qualité d'image est sélectionné, la vitesse d'enregistrement effectivement des images transférées peut être différente de la vitesse d'enregistrement des images définie, afin de garantir la meilleure qualité d'image sous le débit binaire défini, compte tenu de la complexité à l'écran.

Priorité d'encodage

Définissez la priorité entre vitesse d'enregistrement et qualité d'image si la quantité de données d'image dépasse le débit binaire cible.

Si [H.264] ou [H.265] est sélectionné comme [Codec] pour le profil, l'utilisateur peut choisir entre [Vitesse d'enregistrement] et [Compression]. Si [Vitesse d'enregistrement] est défini comme une haute priorité, la vitesse d'enregistrement maximale est sécurisée, mais la qualité de l'image peut être réduite. D'autre part, lorsque [Compression] est définie comme haute priorité, la qualité d'image est sécurisée, mais certaines images peuvent être omises, de sorte que l'image peut être déconnectée ou ne pas sembler naturelle. Si [H.264] ou [H.265] est sélectionné comme [Codec] pour le profil, [Priorité d'encodage] est activée uniquement lorsque [CBR] est réglé pour [Contrôle de débit binaire].

Si le [Codec] du profil est [MJPEG], vous pouvez choisir entre [Vitesse d'enregistrement] et [Débit binaire].

Longueur de GOV

GOV (Group of Vidéo) est un groupe de cadres d'image pour la compression vidéo H.264 / H.265. Cela signifie le groupe de trames d'une image I à l'image I suivante. GOV contient à la fois image-I et image-P. Image-I est l'image qui devient la base de la compression (aussi appelée image clé). Ses données pour une image sont complètes. Image P contient uniquement des informations sur la zone modifiée, en fonction de l'image précédente. Pour cette raison, le nombre d'images-I s'amoindrit autant que la longueur de GOV s'allonge, ce qui réduit la taille de l'image, alors que le nombre d'images-I augmente autant que la longueur de GOV se raccourcit, ce qui agrandit la taille de l'image. La valeur maximale de la longueur de GOV varie en fonction de [Vitesse d'enregistrement] dans [Réglages profil].

Profil

Ce menu devient actif uniquement lorsque le codec du profil est H.264. Le profil peut être considéré comme un ensemble de diverses technologies de compression. Les profils pris en charge dans les caméras Hanwha Techwin incluent [Ligne de référence], [Principal] et [Élevée]. Les performances de compression deviennent plus élevées et la qualité s'améliore lorsque vous passez de Ligne de référence à Élevée, mais beaucoup de ressources système sont utilisées pour la compression et la décompression et peuvent créer des tensions sur l'équipement de lecture.

Codage entropique

Définissez le type pour réduire la perte de compression.

Deux types de codage entropique, CAVLC (codage adaptatif de longueur variable de contexte) et CABAC (codage arithmétique binaire adaptatif de contexte), sont fournis.

- CABAC: La procédure de traitement de données CABAC est plus compliquée que celle de CAVLC, de sorte qu'elle utilise davantage de ressources système, mais son taux de compression est excellent.
- CAVLC: La procédure de traitement des données pour CAVLC est plus simple que CABAC, de sorte qu'elle utilise moins de ressources système, mais le taux de compression est relativement faible.

Codec Smart

Définissez si vous souhaitez ou non utiliser le codec Smart. Le Codec Smart est une technologie unique de Hanwha Techwin qui réduit le taux de compression pour une zone d'intérêt de l'utilisateur (pour produire en haute qualité), alors qu'elle augmente le taux de compression pour d'autres zones, (pour produire en qualité normale), réduisant ainsi la taille des données de l'image dans son ensemble. Le Codec Smart est activé uniquement lorsque [Contrôle de débit binaire] est [CBR].

La zone du Codec Smart peut être définie dans [Vidéo et audio]>[[Codec Smart](#)].

GOV dynamique

Pour appliquer la fonction GOV dynamique au profil actuel, sélectionnez [Activer]. GOV dynamique est la fonction par laquelle la longueur de GOV est automatiquement modifiée en fonction de la situation de l'image. En d'autres termes, dans une image ne présentant quasiment aucun mouvement, la longueur de GOV définie par l'utilisateur dans [GOV dynamique] augmente au maximum et lorsqu'un mouvement est détecté, elle est réduite à la longueur définie dans [[longueur de GOV](#)] pour sortir l'image. GOV dynamique est activé uniquement lorsque [Contrôle du débit binaire] est réglé sur [VBR].

- Saisissez la longueur maximale de GOV à appliquer lorsqu'il n'y a pas de mouvement dans l'image. La plage de la valeur d'entrée est affichée à côté de [[longueur de GOV](#)]. La valeur d'entrée dans [[longueur de GOV](#)] devient la valeur minimale, tandis que la valeur maximale est 480. Elle varie en fonction de [Vitesse d'enregistrement] dans [Réglage profil].

Remarque

- Lorsque la fonction WiseStream est utilisée, si les fonctions GOV dynamique et FPS dynamique sont utilisées, les performances de WiseStream sont optimisées. Le WiseStream peut être défini dans le menu [Vidéo & Audio] > [WiseStream].
- GOV dynamique est activé uniquement lorsque [Contrôle de débit binaire] est réglé sur [VBR] et que [Mode ATC] est réglé sur [Désactiver]. Si [Type de profil] est réglé sur [Enregistrer profil], GOV dynamique est désactivé.

FPS dynamique

Sélectionnez [Activer] pour appliquer la fonction FPS dynamique au profil en cours de définition. FPS dynamique est une fonction qui change automatiquement les réglages FPS, du réglage minimum FPS au réglage de la vitesse d'enregistrement des images selon la situation de l'écran. Dans une vidéo presque immobile, FPS fonctionnera en utilisant le réglage FPS minimum, ce qui à son tour réduit le débit binaire global de l'écran. Lorsqu'un mouvement est détecté, FPS utilisera une valeur FPS augmentée.

FPS minimale

Entrez la valeur FPS minimale à appliquer lorsque FPS dynamique est activé. L'option [Minimale FPS] n'est pas affichée si la valeur de Minimale FPS value est définie comme 1.

Remarque

- Lorsque la fonction WiseStream est utilisée, si les fonctions GOV dynamique et FPS dynamique sont utilisées, les performances de WiseStream sont optimisées. Le WiseStream peut être défini dans le menu [Vidéo & Audio] > [WiseStream].
- FPS dynamique est activé uniquement lorsque [Codec] est réglé sur [H.264] ou [H.265] et que [Contrôle du débit binaire] est réglé sur [VBR]. FPS dynamique est également activé lorsque [Mode ATC] est réglé sur [Désactiver] alors que FPS dynamique est désactivé lorsque [Type de profil] est réglé sur [Enregistrer profil].

Multidiffusion

La multidiffusion est la méthode utilisée pour envoyer des données dans une occurrence de la caméra vers plusieurs équipements. Définissez si vous souhaitez ou non utiliser RTSP (Protocole de diffusion en continu en temps réel) sur le profil actuel et saisissez les informations détaillées.

Multidiffusion (RTSP)

Pour envoyer une image avec le RTSP, sélectionnez [Activer].

Adresse IP

Saisissez une adresse IPv4 pouvant être connectée à partir du réseau IPv4. La multidiffusion peut ne pas être disponible dans un environnement spécifique si 224.0.0.0 ~ 234.255.255.254 sont définis pour l'adresse de multidiffusion. Si un problème survient, changez l'adresse de multidiffusion.

Port

Définissez le port qui contrôle l'envoi de l'image. La plage des ports de multidiffusion RTSP est de 1024 à 65534. (Le port 3702 ne peut cependant pas être utilisé.)

TTL

Vous pouvez définir le TTL du paquet RTSP. Une valeur comprise entre 0 et 255 peut être entrée pour la valeur TTL.

Utilisateur

Gère les comptes des utilisateurs se connectant à la caméra. La modification du mot de passe administrateur et la configuration invité, la configuration de l'authentification et le réglage des utilisateurs actuels sont tous disponibles. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Modification mot de passe administrateur Vous pouvez modifier le mot de passe administrateur. Pour renforcer la sécurité, créez un mot de passe en combinant de manière aléatoire des lettres anglaises majuscules et minuscules, des chiffres et des caractères spéciaux.

Mot de passe actuel

Entrez le mot de passe actuel. Pour empêcher toute modification du mot de passe par quelqu'un d'autre, le mot de passe administrateur ne peut être modifié qu'après avoir saisi l'ancien mot de passe.

Nouveau mot de passe

Entrez un nouveau mot de passe.

Confirmer nouveau mot de passe

Il s'agit de la procédure de confirmation destinée à empêcher toute saisie incorrecte du nouveau mot de passe. Entrez à nouveau le nouveau mot de passe.

Remarque

- Pour plus de sécurité, il est recommandé de créer un mot de passe qui combine des caractères spéciaux, des chiffres, des majuscules et des minuscules.
- Il est recommandé de changer le mot de passe tous les trois mois.
- La longueur du mot de passe et les restrictions sont les suivantes :
 - Pour un mot de passe de 8 à 9 chiffres, vous devez combiner au moins trois types différents de ce qui suit : des lettres majuscules et minuscules, des chiffres et des caractères spéciaux.
 - Pour un mot de passe de 10 à 15 chiffres, vous devez combiner au moins deux types différents de ce qui suit : des lettres majuscules et minuscules, des chiffres et des caractères spéciaux.
 - Il doit être différent de votre identifiant (ID).
 - Vous ne pouvez pas utiliser quatre lettres consécutives d'un même type. (Ex : 1234, abcd)
 - Vous ne pouvez pas répéter la même lettre quatre fois ou plus d'affilée. (Ex : !!!!!, 1111, aaaaaa)
 - Seuls ~!@#\$\$%^*()_++=|{}[]?/ sont autorisés pour les caractères spéciaux.
 - Après la réinitialisation d'usine, les mots de passe administrateur et utilisateur seront réinitialisés et vous devrez les créer à nouveau.
 - Lorsque vous accédez au Web Viewer de la caméra pour la première fois, ou lorsque vous y accédez après l'initialisation, vous accédez au menu. Paramètres du mot de passe.
 - Pour utiliser le menu Web Viewer, vous devez définir le nouveau mot de passe dans le menu Changer MDP et vous connecter à nouveau à Web Viewer avec le mot de passe modifié.

- Lorsque vous modifiez le mot de passe de l'admin, si le mot de passe actuel ne correspond pas, vous ne pouvez alors pas définir un nouveau mot de passe.
- Après avoir modifié le mot de passe, si une caméra est connectée à un client, tel que CMS ou NVR, vous devez alors enregistrer le mot de passe modifié avant toute utilisation. Si vous conservez la même connexion, le client utilisera le mot de passe précédent pour l'authentification, de sorte que le compte peut être verrouillé.
- Lors de la connexion à Web Viewer, si vous avez saisi un mot de passe incorrect plus de cinq fois, la connexion est bloquée pendant 30 secondes et il sera impossible d'accéder à Web Viewer.
- Si la connexion est établie depuis plusieurs endroits avec le même identificateur ou si le mot de passe est modifié alors que plusieurs navigateurs Internet sont ouverts, les navigateurs Internet peuvent ne pas fonctionner correctement. Il est recommandé de modifier un mot de passe uniquement depuis un seul emplacement ou via un seul navigateur Internet.

Configuration invité

Lorsque vous sélectionnez [Activer accès invité], un invité peut se connecter à un écran Web. Lorsque vous vous connectez avec un compte invité, vous pouvez uniquement voir l'écran en direct sur l'écran Web. L'identifiant et le mot de passe de l'invité sont « guest/guest » et ils ne peuvent pas être modifiés.

Configuration de l'authentification

Lorsque vous sélectionnez [Activer la connexion RTSP sans authentification], vous pouvez vous connecter à l'image de la caméra via le protocole RTSP (Diffusion en continu en temps réel) sans authentification de connexion.

Utilisateurs actuels

Vous pouvez définir les informations de connexion pour les comptes des utilisateurs autres que l'administrateur et définir les autorisations d'utilisation, y compris l'entrée audio, la sortie audio, l'émission d'alerte et le profil.

Lorsqu'un utilisateur enregistré se connecte, seules les fonctions définies pour cet utilisateur sont activées. 10 comptes utilisateurs actuels sont définis par défaut. Vous pouvez ajouter ou supprimer un compte. Il est possible d'utiliser jusqu'à 10 comptes d'utilisateur IP actuels.

Remarque

- Si vous souhaitez sélectionner l'utilisateur configuré qui peut utiliser ONVIF, l'utilisation de la fonction peut être restreinte, en fonction du niveau de permission défini.

Utilisation

Cochez la case pour activer le compte d'utilisateur sélectionné.

Nom

Entrez l'identifiant

Mot de passe

Entrez le mot de passe. La règle de définition du mot de passe est la même que pour le mot de passe administrateur.

Entrée audio

Réglez l'autorisation d'accès à l'audio entré. Si l'entrée audio est sélectionnée, un utilisateur qui se connecte au compte approprié peut regarder l'écran et écouter de l'audio en même temps. Si l'entrée audio n'est pas sélectionnée, l'utilisateur peut uniquement regarder l'image.

Sortie audio

Réglez les autorisations de sortie audio. Lorsque la sortie audio est sélectionnée, un utilisateur qui se connecte à un compte approprié peut envoyer de l'audio via le microphone.

Émission d'alerte

Réglez les autorisations d'émission d'alarme. Lorsqu'une alarme a été réglée, un utilisateur qui se connecte à un compte approprié peut émettre l'alarme.

Profil

Lorsque [Par défaut] est défini, l'utilisateur peut regarder l'image uniquement en mode par défaut. Lorsque [Tout] est défini, l'utilisateur peut regarder l'image dans tous les profils.

Saisir un utilisateur actuel

1. Sélectionnez le bouton radio du compte d'utilisateur actuel que vous souhaitez utiliser. Le compte utilisateur actuel est remplacé par un état où l'entrée est disponible.
2. Cochez la case dans la colonne [Utiliser].
3. Saisissez l'identifiant et le mot de passe dans les colonnes [Nom] et [Mot de passe].
4. Sélectionnez une fonction à autoriser dans les colonnes [Entrée audio], [Sortie audio] et [Émission alerte] respectivement, puis sélectionnez le type de profil à autoriser dans la colonne [Profil].
5. Lorsque l'entrée du compte utilisateur actuel est terminée, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.
6. Lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK].

Remarque

- Si le nombre de comptes des utilisateurs actuels est inférieur à 10, vous pouvez ajouter un compte d'utilisateur actuel en cliquant sur le bouton [Ajouter].

Modifier un utilisateur actuel

1. Sélectionnez le bouton radio du compte d'utilisateur actuel que vous souhaitez modifier.
2. Modifiez les paramètres de la fonction et cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.
3. Lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK]. Les informations de l'utilisateur seront modifiées.

Supprimer un utilisateur actuel

1. Sélectionnez le bouton radio du compte d'utilisateur actuel que vous souhaitez supprimer et cliquez sur le bouton [Supprimer].
 2. Cliquez sur le bouton [Appliquer] au bas de la page.
 3. Lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK]. Les informations de l'utilisateur actuel sélectionné seront supprimées.
-

Date et heure

Vous pouvez vérifier l'heure actuelle du système de la caméra, modifier le réglage de l'heure en fonction du fuseau horaire local ou régler l'heure du système via la synchronisation avec un serveur NTP.

Heure actuelle du système L'heure actuelle du système de la caméra est affichée. L'heure du système précédemment définie est affichée.

Fuseau horaire L'heure de la caméra est réglée selon l'heure standard (GMT).

Fuseau horaire

Sélectionnez le fuseau horaire souhaité et cliquez sur le bouton [Appliquer] plus bas.

Utiliser l'heure d'été

Lorsqu'une zone où l'heure d'été est utilisée est sélectionnée, le menu [Utiliser l'heure d'été] s'affiche. Les heures de début et de fin de l'heure d'été dans le fuseau horaire sélectionné sont affichées. Lorsque l'option [Activer] est sélectionnée pour [Utiliser l'heure d'été], une heure, en avance d'une heure sur l'heure standard de la zone concernée, s'affiche.

Remarque

- Ce n'est que lorsque [Utiliser l'heure d'été] est réglée sur [Activer] que l'heure apparaissant dans l'horloge de l'écran de lecture apparaît selon l'heure d'été.
- Si la fonction d'horloge de l'ordinateur est réglée pour appliquer automatiquement l'heure d'été, l'option d'heure d'été est automatiquement sélectionnée dans la visionneuse Web de la caméra et ne peut pas être modifiée par l'utilisateur.

Configuration de l'heure du système L'utilisateur peut définir l'heure de la caméra manuellement ou en la synchronisant avec un serveur NTP. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Manuel

L'utilisateur peut entrer manuellement l'heure actuelle pour la caméra ou la synchroniser avec l'heure du PC avec lequel elle est actuellement utilisée.

- Réglez l'heure du système en entrant l'heure dans [A - M - J] et [h: m: s].
- Lorsque [Synchro avec visionn. PC] est sélectionné, l'heure de la visionneuse PC est synchronisée avec l'heure du système. Lorsque [Synchro avec visionn. PC] est

sélectionné, le même fuseau horaire doit être défini séparément pour le PC et pour la caméra.

Synchro avec serveur NTP

L'heure du serveur NTP (Network Time Protocol) est synchronisée avec l'heure du système. 5 adresses du serveur NTP sont entrées par défaut. Vous pouvez modifier une adresse du serveur NTP en cliquant sur le champ de saisie de l'adresse.

IP & Port

Entrez l'adresse IP et le port. Vous pouvez choisir IPv4 et IPv6 dans l'onglet [Adresse IP]. Vous pouvez définir le port de chaque protocole dans l'onglet [Port]. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Appliquer], vous devez vous reconnecter à la visionneuse Web.

Configuration IPv4

Vous pouvez vérifier ou modifier le type d'IP, l'adresse MAC, l'adresse IP, le masque de sous-réseau, la passerelle et le DNS utilisés pour la communication réseau à l'aide du type IPv4.

Type d'IP

Sélectionnez le type de connexion IP. Si une adresse IP fixe est utilisée, choisissez [Manuel] et entrez les informations. Si une adresse IP dynamique est utilisée, choisissez [DHCP] et entrez uniquement l'adresse du DNS.

Si [PPPoE] est utilisé, entrez l'adresse, l'ID et le mot de passe du DNS.

- Manuel : Entrez et réglez l'adresse IP, le masque de sous-réseau, la passerelle, les DNS1 et DNS2 directement.
- DHCP: Réglez les DNS1 et DNS2.
- PPPoE : Réglez le DNS1, le DNS2, l'identifiant et le mot de passe.

Adresse MAC

L'adresse MAC de la caméra est affichée.

Adresse IP

L'adresse IPv4 actuelle est affichée. Vous pouvez changer l'adresse IP en choisissant [Manuel] pour [Type d'IP].

Masque de sous-réseau

Le masque de sous-réseau de l'actuelle adresse IP est affiché.

Passerelle

La passerelle de l'actuelle adresse IP est affichée. Vous pouvez modifier la passerelle en choisissant [Manuel] pour [Type d'IP].

Paramètre DNS par DHCP

Ceci est affiché lorsque [DHCP] est défini pour [Type d'IP]. Si vous sélectionnez Activer, l'adresse du DNS est automatiquement attribuée.

DNS1/DNS2

L'adresse du serveur DNS (Domain Name Service) est affichée.

Nom hôte

Il est affiché lorsque [Manuel] est défini pour [Type d'IP]. Le nom d'hôte est le nom qui récupère le nom d'hôte utilisé dans la commande ONVIF GetHostname. Le premier caractère doit être alphabétique et seuls les caractères alphanumériques peuvent être saisis. Vous pouvez entrer jusqu'à 16 caractères. Le nom de la caméra est entré par défaut, il n'a pas besoin d'être défini car ce n'est pas une valeur requise.

ID

Il s'affiche lorsque [PPPoE] est défini pour [Type d'IP]. Entrez le bon identifiant afin de vous connecter.

Mot de passe

Il s'affiche lorsque [PPPoE] est défini pour [Type d'IP]. Entrez le bon mot de passe afin de vous connecter.

Configuration IPv6

IPv6 est un système d'adresse internet de dernière génération avec une vitesse de traitement des données, une capacité de traitement de données simultanée et un système d'adresse internet plus importants que IPv4. Pour utiliser IPv6, sélectionnez [Activer]. Vous pouvez définir le type d'IP, l'adresse IP, le préfixe et la passerelle. Lorsque vous sélectionnez un modèle de caméra à partir du programme d'installation IP, vous pouvez sélectionner une adresse IPv4 ou IPv6 et vous connecter en entrant l'adresse appropriée directement dans le navigateur web.

Type d'IP

Sélectionnez le type de connexion IP. La valeur par défaut est [DHCP]. Si DHCP n'est pas détecté, la valeur passera automatiquement au réglage précédent.

- DHCP: L'adresse IPv6 attribuée grâce au DHCP est affichée.
- Manuel : L'utilisateur peut entrer l'adresse IPv6 de son choix.
- Par défaut : L'adresse IPv6 actuelle est affichée.

Remarque

- Après avoir modifié le paramètre, cliquez sur le bouton [Appliquer] pour fermer la fenêtre du navigateur Web. Vous pouvez accéder à nouveau à l'adresse IP modifiée après un moment.

Adresse IP

Entrez l'adresse IPv6.

Préfix

Cette valeur définit la plage de l'IP. Si le [Type d'IP] est [Par défaut], la valeur du [Préfix] est 64. S'il est [Manuel], vous pouvez modifier la valeur du [Préfix].

Passerelle

La passerelle est affichée lorsque [Manuel] est défini pour [Type d'IP]. L'utilisateur entre directement l'adresse de la passerelle.

Port

Un port est l'emplacement utilisé pour l'envoi et la réception de données. Cliquez sur l'onglet [Port], réglez les éléments appropriés, puis cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Il est recommandé d'utiliser HTTPS et RTSP pour renforcer la sécurité de l'image.

Remarque

- Lors de la définition du numéro de port, vous ne pouvez pas utiliser le chiffre 3702, 4520, 49152 ni aucun nombre compris entre 0 et 1023.

HTTP

Le port HTTP est utilisé pour se connecter à la caméra grâce à un navigateur web. La valeur par défaut est 80 (TCP). 65535 ne peut pas être choisi pour le port HTTP lors de la connexion aux navigateurs tels que Safari et Google Chrome, en raison de la politique de sécurité des navigateurs. Lorsque le port HTTP change, la fenêtre du navigateur web sera fermée. Entrez le nouveau port HTTP à la fin de l'adresse IP afin de vous reconnecter. Si le port HTTP est 80, le numéro de port peut être omis. (par exemple : Adresse IP de la caméra : 192.168.1.100, port HTTP En cas de 8080 -> http://192.168.1.100:8080)

HTTPS

HTTPS a une sécurité supérieure à HTTP. Il peut être utilisé lorsque le mode HTTPS est défini dans SSL et que la valeur par défaut est de 443 (TCP). La plage disponible est comprise entre 1024 et 65535. 65535 ne peut pas être choisi pour le port HTTP lors de la connexion aux navigateurs tels que Safari et Google Chrome, en raison de la politique de sécurité des navigateurs.

RTSP

Il s'agit du port permettant d'envoyer une image dans RTSP (Real Time Streaming Protocol) ; la valeur par défaut est de 554.

Délai dépassé

Pour utiliser le délai d'attente, sélectionnez [Activer]. S'il n'y a pas de réponse pendant une certaine période lorsque la connexion est établie en RTSP, réinitialisez la connexion du port.

Configuration du PTZ numérique

Vous pouvez régler les angles de la caméra afin qu'ils bougent après l'exécution du zoom numérique plutôt que de modifier l'angle de la caméra en déplaçant physiquement la caméra de haut en bas (inclinaison) ou gauche et droite (panoramique). Vous pouvez établir un préréglage ou modifier les vues caméra en définissant un groupe de préréglages. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Remarque

- L'option [Profil PTZ numérique] doit être sélectionnée dans [Profil vidéo]>[Type de profil] afin de régler le PTZ numérique.
- Le champ angulaire de vision de la vue 3M Direct est plus grand que celui modifié sur l'écran de prévisualisation.

Préréglage

Le préréglage correspond au réglage des vues de la caméra. 128 préréglages peuvent être définis.

Définir un préréglage

1. Agrandissez l'image de la caméra en cliquant sur le bouton  sur l'écran de contrôle PTZ et ajustez les vues de la caméra en cliquant et en faisant glisser le bouton .
2. Sélectionnez un nombre prédéfini dans [Nombre].
3. Entrez le nom de préréglage approprié dans [Nom].
4. Cliquez sur le bouton [Ajouter].

Lorsque vous cliquez sur le bouton , un objet en mouvement sur l'écran sera suivi automatiquement. Lorsque vous cliquez à nouveau sur le bouton, le suivi automatique s'arrête.

Passer à un préréglage

1. Sélectionnez un nombre prédéfini dans [Nombre].
2. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Aller], les vues caméra vont vers l'emplacement défini.

Effacer un préréglage

1. Sélectionnez le nombre préréglé que vous souhaitez supprimer de [Nombre].
2. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Supprimer], le préréglage sera supprimé.

Groupe

Vous pouvez regrouper plusieurs préréglages et accéder aux préréglages placés dans un groupe de manière séquentielle.

Définir un groupe

1. Sélectionnez un numéro de groupe dans [N° de groupe].
2. Cliquez sur le bouton [Ajouter] dans [Liste des préréglages]. Lorsque la liste des préréglages apparaît, sélectionnez un numéro dans [N° de préréglage] et entrez la durée (en secondes) pendant laquelle il faut rester dans le préréglage approprié dans [Temps de passage].
3. Entrez deux ou plus de numéros préréglés en répétant l'étape n° 2.
4. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Lancer un groupe

1. Sélectionnez un groupe que vous souhaitez lancer dans [N° de groupe].
2. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Démarrer], les préréglages du groupe approprié changent en fonction du temps de passage.
3. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Arrêter], les préréglages en cours d'exécution en groupe s'arrêtent.

Effacer un groupe

1. Sélectionnez un groupe que vous souhaitez effacer du [N° de groupe].
 2. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Supprimer], le groupe sera supprimé.
-

Vidéo configuration

Vous pouvez définir une zone de confidentialité dans l'image de la caméra ou la retourner dans le sens inverse (verticalement ou horizontalement). De plus, vous pouvez afficher une image analogique ou changer le type de sortie vidéo. Une fois le réglage terminé, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Une fois le réglage terminé, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Zone de confidentialité

Pour éviter toute possibilité d'atteinte à la vie privée dans l'image de la caméra, vous pouvez définir une zone de confidentialité. Après avoir sélectionné [Activer la zone de confidentialité]. Pour désactiver une zone de confidentialité, désélectionnez [Activer la zone de confidentialité]. Vous pouvez vérifier l'image complète de la caméra sans rien cacher pour des raisons de confidentialité. Les zones de confidentialité définies ne sont pas supprimées et peuvent être vérifiées dans la liste des zones de confidentialité.

Modèle

Sélectionnez le modèle de mosaïque à appliquer à une zone de confidentialité. Sélectionnez [Solid] pour appliquer le jeu de couleurs dans la fenêtre de la zone de confidentialité. Si vous sélectionnez le modèle, il sera appliqué à toutes les zones.

Définition d'une zone de confidentialité (sauf pour un zoom ou une caméra PTZ)

1. Sélectionnez [Activer la zone de confidentialité] puis cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.
2. Cliquez sur les 4 coins avec la souris sur l'écran vidéo de la caméra.
3. Dans la fenêtre [Zone de confidentialité], définissez les éléments suivants :
 - Entrez le nom de la zone de confidentialité dans [Nom], sélectionnez la couleur de couverture de l'image dans [Couleur].
4. Dans la fenêtre [Zone de confidentialité], cliquez sur le bouton [OK].
5. Une nouvelle zone de confidentialité est ajoutée à la liste des zones de confidentialité. La couleur définie dans l'écran d'image de la caméra est utilisée pour afficher une zone de confidentialité.

Définition d'une zone de confidentialité (caméra PTZ)

1. Sélectionnez [Activer la zone de confidentialité] puis cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.
2. Faites glisser la souris sur l'écran vidéo de la caméra pour définir la taille de la zone de confidentialité.
3. Dans la fenêtre [Zone de confidentialité], définissez les éléments suivants :
 - Faites glisser l'icône ➕ pour placer l'écran vidéo souhaité sur une zone de confidentialité, en ajustant le panoramique/inclinaison de la caméra.
 - Entrez le nom de la zone de confidentialité dans [Nom], sélectionnez la couleur de couverture de l'image dans [Couleur].
 - Sélectionnez s'il faut activer ou non [Seuil de zoom]. Cette fonction garantit qu'une zone de confidentialité n'est utilisée que si l'image est agrandie à un taux de zoom supérieur à celui défini dans [Définir seuil de zoom]. En d'autres termes, si l'image est réduite en dessous du taux de zoom, la zone de confidentialité est supprimée de l'image.
4. Dans la fenêtre [Zone de confidentialité], cliquez sur le bouton [OK].
5. A l'étape 3, si vous avez sélectionné [Activer] pour l'option [Seuil de zoom], alors la fenêtre [Définir seuil du zoom] s'affiche. Après avoir défini le rapport de zoom souhaité, cliquez sur

le bouton [OK].

6. Une nouvelle zone de confidentialité est ajoutée à la liste des zones de confidentialité. La zone de confidentialité à laquelle le seuil de zoom est appliqué sera marquée comme « [Zoom] » dans la liste des zones de confidentialité. La couleur définie dans l'écran d'image de l'appareil photo est utilisée pour afficher la zone de confidentialité.

Définition d'une zone de confidentialité (caméra avec zoom)

1. Sélectionnez [Activer la zone de confidentialité] puis cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.
2. Faites glisser la souris sur l'écran vidéo de la caméra pour définir la taille de la zone de confidentialité.
3. Dans la fenêtre [Zone de confidentialité], définissez les éléments suivants :
 - Entrez le nom de la zone de confidentialité dans [Nom], sélectionnez la couleur de couverture de l'image dans [Couleur].
 - Sélectionnez s'il faut activer ou non [Seuil de zoom]. Cette fonction garantit qu'une zone de confidentialité n'est utilisée que si l'image est agrandie à un taux de zoom supérieur à celui défini dans [Définir seuil de zoom]. En d'autres termes, si l'image est réduite en dessous du taux de zoom, la zone de confidentialité est supprimée de l'image.
4. Dans la fenêtre [Zone de confidentialité], cliquez sur le bouton [OK].
5. A l'étape 3, si vous avez sélectionné [Activer] pour l'option [Seuil de zoom], alors la fenêtre [Définir seuil du zoom] s'affiche. Après avoir défini le rapport de zoom souhaité, cliquez sur le bouton [OK].
6. Une nouvelle zone de confidentialité est ajoutée à la liste des zones de confidentialité. La zone de confidentialité à laquelle le seuil de zoom est appliqué sera marquée comme « [Zoom] » dans la liste des zones de confidentialité. La couleur définie dans l'écran d'image de l'appareil photo est utilisée pour afficher la zone de confidentialité.

Remarque

- Seules les lettres anglaises, les chiffres, le tiret (-) et le point (.) peuvent être saisis pour le nom d'une zone de confidentialité.

Suppression d'une zone de confidentialité

1. Sélectionnez une zone de confidentialité à supprimer dans la liste des zones de confidentialité. La zone sélectionnée est affichée sur l'écran d'image de la caméra.
2. Cliquez sur le bouton [Effacer]. La zone sélectionnée est alors effacée.

Rotation vidéo

Si l'écran est affiché à l'envers après l'installation de la caméra, vous pouvez le corriger en utilisant les fonctions du mode flip et du mode miroir.

La fonction [Affichage Hallway] offre une longue vue verticale de l'écran, ce qui permet à l'utilisateur d'utiliser la zone de surveillance plus efficacement dans un couloir ou une ruelle.

Remarque

- Si vous modifiez les paramètres de rotation vidéo, l'écran vidéo sera retourné dans quatre directions ou modifié. Pour vous aider à analyser la vidéo modifiée, modifiez les paramètres d'analyse dans le menu [Analytics].

Retourner

Vous pouvez retourner l'image de la caméra à l'envers. Pour retourner l'image de la caméra, sélectionnez [Activer].

Miroir

Vous pouvez faire un miroir de l'image de la caméra. Pour refléter l'image de la caméra, sélectionnez [Activer].

Affichage Hallway

En faisant tourner l'image de la caméra dans un environnement où une caméra générale ne peut pas surveiller correctement les allées étroites ou les couloirs, vous pouvez agrandir les zones de surveillance verticale. Vous pouvez la faire pivoter de 90 degrés (sens horaire) ou 270 degrés (sens horaire) ou la régler à 0 degré pour revenir à l'image originale.

Remarque

- Pour régler la vue du couloir, vous devez régler la caméra installée sur 0 degré, ou la tourner de 90 degrés dans le sens des aiguilles d'une montre ou de 270 degrés dans le sens des aiguilles d'une montre, et sélectionner le même angle dans la fenêtre [Affichage Hallway].
- Lorsque vous réglez [Affichage Hallway], le navigateur Web se ferme automatiquement. Vous devrez vous reconnecter au Web Viewer.

Sortie vidéo

Sélectionne la méthode d'affichage de la sortie vidéo de la caméra.

USB

Pour afficher une vidéo de caméra à l'aide d'un USB, cliquez sur [Activer].

En utilisant le dongle Wi-Fi et l'application pour smartphone de Hanwha Techwin, vous pouvez accéder à votre caméra via Wi-Fi. C'est utile lorsque vous essayez d'installer une caméra réseau pour la première fois ou de modifier le champ de vision angulaire ou la position de votre caméra, car vous pouvez voir l'écran de la caméra sur votre smartphone sans avoir à vous procurer un moniteur supplémentaire pour vérifier l'installation.

Sortie vidéo

Pour afficher une vidéo en connectant un câble à la borne CVBS, cliquez sur [Activer]. Elle est utile car vous pouvez la régler en vérifiant la position de l'objectif ou la mise au point lors de l'installation de la caméra.

Type de CVBS

Pour utiliser CVBS, sélectionnez le type de sortie vidéo CVBS.

- NTSC : NTSC (Comité du système national de télévision) est la norme américaine pour les téléviseurs couleur. Le nombre d'images par seconde est de 30 et le nombre de faisceaux de projection horizontale est de 525. Comme le nombre d'images par seconde est élevé, l'écran semble très naturel. Il est surtout utilisé aux États-Unis, au Japon et au Canada.
- PAL : La méthode PAL (Ligne d'alternance de phase) a été proposée par l'Allemagne et elle est similaire à NTSC mais diffère par la façon dont elle traite les

signaux de couleur. Il est surtout utilisé en Europe. Par rapport au NTSC, le nombre d'images par seconde est plus faible, mais le nombre de faisceaux horizontaux est plus élevé (625). Ainsi, la résolution est plus élevée, la déformation des couleurs est moindre et l'installation de diffusion n'exige pas de spécifications élevées.

Audio configuration

Vous pouvez connecter un microphone et un haut-parleur à une caméra réseau et écouter les sons à un emplacement éloigné du lieu où la caméra est installée, ou bien émettre le son depuis la caméra vers l'emplacement. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Entrée audio

Vous pouvez intégrer de l'audio dans une image grâce à un microphone connecté à la caméra. Intégrez l'audio en sélectionnant une source adaptée à l'environnement d'utilisation.

Source

Sélectionnez un type d'entrée d'alerte.

- Microphone interne : Il s'agit du microphone interne inclus avec la caméra.
- Microphone externe : Un microphone externe peut être connecté à la caméra et utilisé à la place du microphone interne. Lorsque vous sélectionnez [Appliquer l'alimentation à Ext. Mic.], la caméra alimente un microphone externe.
- Ligne : Connectez-vous à l'équipement de son grâce à un câble. Par exemple, connectez un équipement audio tel qu'un lecteur MP3 et une caméra à l'aide d'un câble, puis sélectionnez le lecteur MP3 lorsque vous insérez du son enregistré dans la caméra.

Codec

Sélectionnez un codec audio.

- G.711 : Il s'agit du codec audio standard pour l'UIT-T. Il est principalement utilisé dans les communications téléphoniques ; la qualité audio est basse. On l'appelle aussi la modulation par impulsions codées de la fréquence sonore ; les ondes sonores peuvent être transmises numériquement dans RTP ou par PBX.
- G.726 : Il s'agit du codec audio standard pour l'UIT-T. Il est principalement utilisé dans les communications téléphoniques ; la qualité audio est basse. Il est possible de changer et de compresser de 64 Kbps de MIC en 16, 24, 32 ou 40 Kbps par l'intermédiaire de la MICDA (modulation par impulsions et codage différentiel adaptatif).
- AAC: AAC (Advanced Audio Coding) est la norme internationale qui succède au format MP3. Il est plus efficace que le MP3 et possède une qualité sonore similaire à une copie originale d'un CD. AAC permet l'utilisation d'audio avec un débit d'échantillonnage plus élevé que dans le cas des codecs G.711 et G.726 précédents.

Remarque

- Lorsqu'une image est diffusée via Firefox ou Edge, le codec AAC n'est pas pris en charge même si le codec souhaité a été défini dans la page de configuration audio.

Débit échant.

Cela fait référence au nombre d'échantillonnages par seconde lorsqu'une source sonore analogique est convertie en une source sonore numérique ; comme cette valeur est supérieure, le son est de meilleure qualité. Le débit d'échantillonnage est fixé pour chaque codec audio et ne peut être modifié par l'utilisateur. Le débit d'échantillonnage des codecs G.711 et G.726 est de 8 kHz, tandis que le débit d'échantillonnage du codec AAC est de 16 kHz.

Débit Binaire

Le débit binaire du codec G.711 est de 64 Kbps et ne peut pas être modifié. Le débit binaire du codec G.726 est de 16, 24, 32 et 40 Kbps ; le taux de compression peut être modifié. Seulement 48 Kbps peuvent être sélectionnés pour le codec AAC.

Gain

Définit la valeur d'amplification de l'entrée audio. Si le son d'entrée est trop faible, vous pouvez augmenter la valeur de gain pour amplifier le signal audio d'entrée. La plage de valeur de gain va de 1 à 10, plus la valeur est grande, plus l'amplification est élevée.

Réduction de bruit

Sélectionnez Réduction de bruit si le bruit environnant est trop fort pour entendre le son présentant un intérêt.

Il est possible que la réduction de bruit ne fonctionne pas correctement si le bruit est impossible à distinguer des voix périphériques, ou si la pression acoustique est élevée.

- Sensibilité: Vous pouvez définir la sensibilité de réduction de bruit en fonction du niveau de bruit ambiant.

Sortie audio

Il est possible d'émettre du son via le haut-parleur intégré.

Sortie audio

Pour utiliser la sortie audio, sélectionnez [Activer].

Gain

Définit la valeur d'amplification de la sortie audio. Si le son de sortie est trop faible, vous pouvez augmenter la valeur de gain afin d'amplifier le signal audio de sortie. La plage de valeur de gain va de 1 à 10, plus la valeur est grande, plus la sortie audio est forte. Le gain est activé uniquement lorsque l'option [Activer] est sélectionnée pour la sortie audio.

Remarque

- Si un niveau audio ou une valeur de gain excessif est défini, la qualité du son peut se détériorer ou un sifflement peut apparaître.

Réglage Caméra

Dans l'environnement où une caméra est installée, vous pouvez modifier la configuration de la caméra pour enregistrer une vidéo de qualité optimale. Par défaut, des préréglages d'image adaptés à divers environnements sont fournis, et les utilisateurs peuvent configurer leurs caméras eux-mêmes. Sur l'écran d'aperçu de la caméra, vous pouvez vérifier à quoi ressemblera l'image de la caméra. Une fois l'installation terminée, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Si un délai supérieur à 240 sec s'écoule sans cliquer sur le bouton [Appliquer] après avoir modifié les réglages, ceux-ci reviennent à leur état précédent.

Capteur Mode

Définissez le nombre d'images par seconde utilisées par le capteur CMOS pour capturer la caméra.

Remarque

- Changer le mode du capteur réinitialisera tout le réglage de la caméra.
- Une fréquence d'images différente ne peut pas être définie pour chaque image prédéfinie et la fréquence d'images est appliquée de la même manière à chaque image prédéfinie.
- Valeur maximale de [Basic]>[Profil vidéo]>[Vitesse d'enregistrement] varie en fonction du nombre d'images défini pour le mode de capteur.

Mode de préréglage d'image

Différents préréglages d'images sont fournis à des fins différentes. Sélectionnez un préréglage d'image approprié à l'environnement de votre caméra.

- Préréglage défini par l'utilisateur 1 : utilisé pour afficher l'image telle que définie par l'utilisateur.
- Préréglage défini par l'utilisateur 2 : utilisé pour afficher l'image telle que définie par l'utilisateur.
- Jour extérieur : Utilisé pour afficher une vidéo claire et homogène enregistrée en journée à l'extérieur.
- Nuit extérieur : Réduit le niveau de bruit de la vidéo enregistrée à l'extérieur la nuit avec une faible luminosité et pour éclaircir les zones sombres.
- Lumière à contre-jour intérieur : Affiche la vidéo qui est visible à l'intérieur et à l'extérieur avec un contre-jour intérieur.
- Scènes lumineuses intérieur : Fournit une qualité d'image claire et réduit le scintillement dans un environnement intérieur éclairé.
- Plaques d'immatriculation : Utilisé pour améliorer la capacité d'identifier la plaque d'immatriculation d'un véhicule de jour et de nuit.
- Vivid video : Utilisé pour améliorer la couleur et la clarté.

Remarque

- Après avoir sélectionné un mode de préréglage d'image, modifiez les paramètres détaillés de l'image de la caméra, tels que la balance des blancs et les modes nuit/jour, puis cliquez sur [Appliquer]. La valeur modifiée sera sauvegardée comme valeur de préréglage de l'image. Si vous voulez le ramener à la valeur initiale, cliquez sur la touche [Réinitialiser].

SSDR

La fonction SSDR est utilisée pour que tout ait l'air homogène en augmentant seulement la luminosité des parties sombres où les parties sombres et claires sont significativement différentes les unes des autres.

SSDR

Pour utiliser la fonction SSDR, sélectionnez [Activer].

Niveau

Ajustez la plage dynamique. Plus le niveau est élevé, plus la partie sombre devient claire.

Plage D

Sélectionnez la zone d'amplitude de la plage dynamique.

Balance des blancs

Vous pouvez apporter des corrections pour afficher la couleur blanche correctement et d'autres couleurs normalement, dans n'importe quel environnement d'éclairage.

Mode

Sélectionnez le mode de balance des blancs en fonction de l'environnement de la caméra.

- Manuel : Ajustez manuellement les gains rouge et bleu. S'il y a trop de rouge, alors réduisez le gain rouge ; s'il y a trop de bleu, réduisez le gain bleu ; s'il y a trop de vert, augmentez les valeurs bleu et rouge en même temps.
- ATW : Corrige automatiquement de la couleur de la caméra.
- Extérieur : Les couleurs de la caméra sont corrigées pour être optimisées pour un environnement extérieur.
- Intérieur : Les couleurs de la caméra sont corrigées pour être optimisées pour un environnement intérieur.
- AWC : Ajustez l'écran pour optimiser la couleur de la caméra en fonction de l'environnement d'éclairage actuel. Placez un papier blanc devant la caméra et appuyez sur le bouton [Paramètres] pour ajuster les gains rouge/bleu et appliquer les résultats à la vidéo. La valeur de balance des blancs continue d'être appliquée à la vidéo actuellement affichée et vous devez l'ajuster à nouveau lorsque l'environnement change.

Gain des rouges

Ajustez le gain de rouge. Si le gain de rouge est élevé, alors il y a trop de couleur rouge sur l'écran. Dans ce cas, réduisez le gain de rouge.

Gain des bleus

Ajustez le gain des bleus. Si le gain des bleus est élevé, alors il y a trop de couleur bleue sur l'écran. Dans ce cas, réduisez le gain des bleus.

i Remarque

- Dans les cas suivants, la balance des blancs peut ne pas fonctionner correctement. Si c'est le cas, utilisez le mode [AWC] pour ajuster la balance des blancs.
 - Si l'environnement environnant dépasse la plage de correction de la température de couleur, comme un ciel clair ou un coucher de soleil
 - Si l'environnement environnant est sombre
 - Si la caméra fait directement face à une lumière fluorescente ou s'il y a un changement significatif de l'éclairage.

Lumière à contre-jour

Vous pouvez corriger une image exposée au contre-jour. Sélectionnez Désactivé, BLC, HLC ou WDR sous [Mode], et modifiez le réglage en fonction du mode de contre-jour sélectionné.

BLC

Le mode BLC (Compensation du contre-jour) sélectionne et corrige une zone spécifique d'une image sombre capturée en raison du contre-jour, afin de montrer plus clairement un objet dans la zone sélectionnée.

Niveau de la BLC

Vous pouvez choisir entre bas, moyen et haut. Plus le niveau est élevé, plus la zone est claire.

i Remarque

- La boîte verte qui affiche le menu pour appliquer des pondérations au réglage de luminosité de BLC apparaîtra pendant environ 15 secondes avant de disparaître.
- Pour éviter les dysfonctionnements lors du réglage de la BLC, l'intervalle vertical de la BLC est limité à max 60/min 40 et l'intervalle horizontal est limité à max 60/min 30.

HLC

Le mode HLC (Compensation de lumière élevée) bloque l'éclairage puissant tel qu'un lampadaire ou les phares d'un véhicule, afin d'éviter qu'un objet ne soit pas reconnu. Il peut empêcher la détection d'un objet voisin tel que la plaque d'immatriculation de la voiture en raison de la saturation des lumières fortes.

Niveau HLC

Réglez le niveau d'exposition et réglez les zones de mise en évidence.
Vous pouvez choisir entre bas, moyen et haut. Plus le niveau est élevé, plus la correction est élevée et plus la différence est importante pour les zones dont la surbrillance est bloquée.

Masque

Permet de choisir d'appliquer ou non le masque.

- Désactivé : Ne crée pas de zone bloquée.
- Activer : Bloque toujours les zones de luminosité au-dessus d'un certain niveau.

- Toute la journée : Bloque les zones sauf pendant les périodes très claires ou sombres.
- Nuit seulement : Bloque les zones existantes jusqu'à ce qu'il fasse nuit.

Couleur du masque

Règle la couleur de la zone bloquée.

TON MASQ

Règle la tonalité de la zone bloquée.

Atténuation

Détecte la zone fortement éclairée de l'écran et ajuste la luminosité pour réduire la taille des zones saturées.

Configuration de la zone

Définit la taille et l'emplacement de la zone bloquée.

- Haut : Définit la distance entre la surface supérieure et le haut de l'écran.
- Bas : Définit la distance entre la surface inférieure et le bas de l'écran.
- Gauche : Définit la distance entre la surface gauche et le côté gauche de l'écran.
- Droit : Définit la distance entre la surface droite et le côté gauche de l'écran.

i Remarque

- La nuit, il ne fonctionne que lorsqu'il y a un reflet brillant d'une certaine taille de zone ou plus grand, dans un environnement sombre.
- La nuit, s'il fait trop clair ou trop sombre, alors la fonction HLC ne fonctionnera pas. Dans la journée, s'il fait trop sombre, la fonction HLC ne fonctionnera pas.
- La boîte verte qui affiche le menu pour appliquer des pondérations au réglage de luminosité de HLC initial apparaîtra pendant environ 15 secondes avant de disparaître.
- Pour éviter les dysfonctionnements lors du réglage de la HLC, l'intervalle vertical de la HLC est limité à max 60 / min 40 et l'intervalle horizontal est limité à max 60 / min 30.

WDR

Le mode WDR (Large gamme dynamique) est utilisé pour améliorer la visibilité des zones sombres et lumineuses en contre-jour. En utilisant le double obturateur de la caméra, vous pouvez prendre deux photos - l'une avec un obturateur court pour rendre la partie lumineuse plus visible et l'autre avec un obturateur long pour rendre la partie sombre plus visible. En mode WDR, il peut y avoir des bruits entre les zones sombres et les zones claires.



Mode WDR désactivé



Mode WDR activé

Niveau du WDR

Ajuste l'intensité de la correction de contre-jour.

Automatique

Si [Activer] est sélectionné, l'image est analysée et le mode WDR est activé automatiquement lorsque la correction du contre-jour est nécessaire.

Éteindre faible lumière

Si [Activer] est sélectionné, le mode WDR est automatiquement désactivé dans un environnement faiblement éclairé.

IR désactivé

Si [Activer] est sélectionné, le mode WDR est automatiquement désactivé lorsque le mode B/W fonctionne.

Remarque

- La valeur de l'obturateur se réinitialise si le mode WDR est sélectionné. Ainsi, l'écran devient lumineux puis sombre.
- Lorsque l'objectif P-Iris est utilisé manuellement ou que l'obturateur anti scintillement est utilisé, les performances du mode WDR deviennent limitées.
- Lorsque le mode WDR est utilisé, la vitesse d'enregistrement est réduite de moitié.
- Il est recommandé d'utiliser le mode WDR lorsqu'une caméra est installée à l'intérieur et qu'il y a un très fort contre-jour.
- Si le mode WDR est utilisé, du bruit peut se produire entre la zone claire et la zone sombre.
- Si le mode WDR est utilisé, du bruit peut se produire dans la zone de détection de mouvement.
- Veuillez désactiver le mode WDR car, selon les conditions d'éclairage en mode WDR, les problèmes suivants peuvent survenir :
 - Changements de couleur non naturels, symptôme non naturel sur l'écran.
 - Quand il y a du bruit sur la partie brillante de l'écran.
- Les performances du WDR peuvent varier en fonction de la taille des zones lumineuses de l'écran, ajustez alors l'angle d'installation correctement pour obtenir les meilleures performances du WDR.
- Si vous réglez le niveau du WDR à un niveau trop élevé, l'écran peut présenter des symptômes non naturels.
- Pour obtenir les meilleures performances WDR, il est recommandé de régler l'iris d'exposition sur [Automatique].

Exposition

Vous pouvez régler le niveau d'exposition en fonction de l'environnement d'enregistrement de la caméra. Si l'arrière-plan est plus sombre que l'objet, vous devez réduire le niveau d'exposition pour afficher l'objet correctement. Au contraire, si l'arrière-plan est plus lumineux que l'objet, vous devez augmenter le niveau d'exposition.

Luminosité

Règle la luminosité de l'écran. Plus le nombre est élevé, plus l'écran devient lumineux.

Obturation minimale

L'exposition du capteur peut être réglée automatiquement par l'obturateur en fonction de l'environnement. L'obturateur électrique fonctionne dans la plage d'obturation min/max. L'obturateur minimum est la durée minimale d'exposition à basse vitesse de l'obturateur et il est utilisé pour fixer la limite d'exposition longue.

Si la valeur minimale d'obturation sélectionnée est inférieure à la valeur de fps du mode [Capteur], la vitesse d'enregistrement peut être réduite dans l'obscurité.

Obturation maximale

L'obturation maximale signifie la valeur maximale de la plage de temps d'exposition possible et définit un temps d'exposition court.

Préférer l'obturateur

Règle la durée d'exposition appropriée qui a une priorité élevée en fonctionnement dans la plage de temps d'exposition.

Anti scintillement

Empêche le scintillement de l'écran qui se produit en raison de l'incohérence de l'éclairage dans l'environnement de prise.

SSNR

Supprime le bruit de l'image.

- Activer/Désactivé : la fonction SSNR peut être activée ou désactivée. Si vous sélectionnez [Activer], il est alors possible d'ajuster le niveau du SSNR.
- Wise NR : Lorsqu'un objet en mouvement se trouve dans l'image, le niveau de réduction du bruit est ajusté automatiquement pour améliorer la précision de l'identification de l'objet.

Niveau 2D SSNR

Réglez le niveau SSNR. Le réglage peut être utilisé en réglant [SSNR] sur [Activer] ou [Wise NR].

Plus le niveau est élevé, moins il y a de bruits, mais la vidéo peut devenir floue.

Niveau 3D SSNR

SSNR 3D utilise des pixels dans plusieurs images pour réduire le niveau de bruit dans une image. Réglez le niveau 3D SSNR. Activez-le en réglant [SSNR] sur [Activer] ou [Wise NR].

Plus le niveau est élevé, moins il y a de bruits, mais la vidéo risque d'être retardée.

Iris

Sélectionnez (Auto), manuel, ou P-Iris.

- DC (Auto) : Ajuste automatiquement l'iris en fonction de l'intensité optique de l'environnement.

- Manuel : Règle manuellement la valeur F de l'iris.
- P-iris : Le réglage de l'obturateur s'effectue à l'aide d'un moteur à enclenchement. Une grande profondeur de champ peut être sécurisée de sorte qu'un certain nombre d'objets à différentes distances peuvent être mis au point en même temps.

Pas de F. Iris

Fonction activée lorsque le mode [Iris] est réglé sur [Manuel], et elle définit le numéro F de l'iris.

CAG

CAG (Contrôle de gain automatique) ajuste la luminosité en contrôlant la sensibilité du gain de l'image lors de la capture d'un objet dans une lumière faible.

Remarque

- L'exposition de l'écran peut être saturée en fonction de la plage max/min des réglages de l'obturateur.
- Il peut s'écouler un certain temps avant que l'effet soit appliqué ou annulé après le réglage du mode Wise NR (SSNR 2D et SSNR 3D).
- Le niveau de bruit peut augmenter malgré l'amélioration de la capacité de détection vidéo après le réglage du mode Wise NR (SSNR 2D et SSNR 3D).
- Dans un environnement clair et moins bruyant, l'effet de Wise NR (SSNR 2D et SSNR 3D) peut être faible.
- Puisque la fonction de détection de mouvement est utilisée en interne lorsque le Wise NR (SSNR 2D et SSNR 3D) est activé pour détecter le mouvement dans la vidéo, elle est détectée en fonction de l'état de fonctionnement de l'événement de détection de mouvement. Pour les réglages détaillés de détection de mouvement, allez à [Analyse] > [Détection de mouvement].

Diurne/nocturne

Vous pouvez changer l'image d'une caméra en couleur ou en noir et blanc selon l'environnement. De plus, en choisissant l'heure de commutation, il peut être automatiquement commuté en noir/blanc ou en couleur à l'heure spécifiée. Lorsque vous changez de mode nuit et jour, vous ne pouvez pas détecter un événement de détection de mouvement ou un événement d'analyse vidéo.

Mode

Détermine le changement de mode de la caméra entre la couleur et le noir et blanc.

- Couleur : Affiche une image en couleur.
- N/B : Affiche toujours une image en noir et blanc.
- Automatique : Il passe en mode couleur le jour et en noir et blanc la nuit ou à l'heure avec une faible luminosité. Si [Désactivé] est réglé pour [AGC] de l'[Exposition], il est impossible de régler Jour/Nuit automatiquement.
- Entrée externe : Lorsqu'une borne d'entrée d'alarme est reliée à un équipement externe, la couleur et le noir et blanc de la vidéo peuvent être contrôlés.
- Calendrier : Jour/Nuit est modifié pour passer au calendrier défini à partir de [Heure d'activation (couleur)].

Temps de passage

Passer de la couleur au noir et blanc lorsque l'option [Automatique] est sélectionnée pour Jour/Nuit et que la luminosité est maintenue pour le temps de passage défini.

Durée

Règle l'intervalle de temps lors du passage à la couleur ou N/B.

Entrée d'alerte

Règle la vidéo en couleur ou N/B en fonction de l'ouverture ou de la fermeture du capteur d'alarme. Lorsque [Externe] est défini pour [Mode] de [Jour/Nuit], la fonction [Événement] > [Entrée d'alerte] est alors désactivée et la page de configuration ne s'affiche pas.

Temps d'activation (couleur)

Programme le temps de fonctionnement du mode couleur. Si vous sélectionnez [Quotidiennement] et que vous réglez l'heure, il fonctionne en mode couleur pendant la période de temps spécifiée tous les jours, et il fonctionne en mode noir et blanc pendant le reste de la journée. Si vous ne voulez pas qu'il fonctionne tous les jours à la période spécifiée, désélectionnez [Quotidiennement] et réglez l'heure de fonctionnement du mode couleur pour chaque jour (lundi, mardi, mercredi, jeudi, vendredi, samedi et dimanche).

Remarque

- Lorsque vous passez du mode nuit au mode jour, l'événement de détection de mouvement n'a pas lieu. En d'autres termes, même si vous avez activé l'événement de détection de mouvement, il ne détectera pas le passage du mode nuit au mode jour. Vous pouvez activer ou désactiver l'événement de détection de mouvement dans [Analyse] > [Détection mv].

Spécial

Règle la netteté, le contraste, le niveau de couleur et le désembuage des images.

DIS

DIS (Stabilisation d'image numérique) est utilisé pour afficher l'écran de manière fiable en corrigeant automatiquement les images lorsque la caméra tremble en raison d'impacts externes, comme le vent.

Remarque

- Si vous modifiez les paramètres DIS, l'écran vidéo effectuera un zoom avant ou arrière. Pour vous aider à analyser la vidéo modifiée, modifiez les paramètres d'analyse dans le menu [Analyse].

Netteté

Règle la netteté globale d'une image.

Niveau de définition

Règle la netteté globale de la vidéo. Vous pouvez régler le niveau de netteté en réglant [Netteté] sur [On].

Plus le niveau du bord est élevé, plus le bord vidéo est fort et clair.

Niveau de facteur de contraste

Règle le contraste de la vidéo. Il s'agit de l'écart de luminosité entre la partie la plus claire et les parties les plus sombres d'une image ; un niveau de facteur de contraste plus élevé signifie un affichage plus clair de la différence de luminosité.

Contrast

Règle le contraste des teintes de l'image.

Niveaux des couleurs

Règle l'intensité de la couleur dans l'image.

Désembuage

Corrige l'image lorsqu'il y a du brouillard ou que le temps est mauvais. Réglez-le sur [Automatique] pour corriger automatiquement une image en détectant l'environnement environnant. Si vous le réglez sur [Manuel] vous pouvez observer l'environnement environnant et régler vous-même la quantité de correction.

La valeur initiale est définie sur [Désactivé].

Niveau de désembuage

Si la fonction Désembuage est réglée sur [Manuel], il est possible de régler le niveau de désembuage. Si le niveau de désembuage est élevé, l'image est affichée plus clairement. Si le niveau de brouillard est bas mais que le niveau de désembuage est élevé, l'écran peut devenir plus sombre.

i Remarque

- Si vous réglez le mode de désembuage sur [Automatique], lorsque la quantité de brouillard diminue, le niveau de la fonction de désembuage est également abaissé. Si vous voulez maintenir le même effet de la fonction malgré une diminution du brouillard, réglez le mode Désembuage sur [Manuel].
- Si le niveau de brouillard est bas et qu'un niveau de désembuage manuel est élevé, l'écran peut paraître plus sombre.

LDC

LDC (Correction de la distorsion de l'objectif) corrige la distorsion de l'image au bord d'un objectif grand angle.

- Désactiver : Ne pas utiliser la fonction de correction de distorsion d'image.
- Manuel : Règle manuellement le niveau de correction de distorsion.
- Automatique : Règle automatiquement la distorsion de l'image.

Niveau de LDC

Règle le niveau de correction de distorsion. Réglez [LDC] sur [Manuel] pour l'activer.

OSD

Affiche le titre de la caméra ou la date et l'heure, et définit l'emplacement, la taille, la couleur et la transparence des caractères.

Titre de la caméra

Permet d'afficher ou non le titre d'une caméra. Si vous sélectionnez [Activer], les boutons [Ajouter]/[Effacer] seront activés.

Cliquez sur le bouton [Ajouter] pour ajouter un champ où vous pouvez entrer le nom de la caméra dans la liste. Après avoir saisi le titre de la caméra, déplacez les coordonnées X et Y pour définir l'emplacement. Vous pouvez ajouter jusqu'à 5 titres de caméra.

Pour supprimer un titre de caméra, sélectionnez un nom de caméra à supprimer et cliquez sur le bouton [Effacer]. Après avoir entré le titre de la caméra, si vous voulez voir à quoi elle ressemble, entrez le nom de la caméra et cliquez sur le bouton [Preview].

Date et heure

Pour afficher la date et l'heure à l'écran, sélectionnez [Activer]. Sélectionnez le type d'affichage de la date et réglez la position pour afficher la date et l'heure en déplaçant les coordonnées X et Y.

Taille

Ajuste la taille de l'OSD.

Couleur

Définit la couleur de l'OSD.

Transparence

Définit la transparence de l'OSD.

Remarque

- Dans le cas d'un élément dont l'emplacement peut être ajusté (titre de la caméra, date et heure), s'il chevauche d'autres éléments OSD fixes, l'écran risque de ne pas s'afficher correctement.
- Seuls le coréen, l'anglais, les chiffres et les symboles sont autorisés.

IR

Mode

En mode N/B lorsque la LED IR est allumée, la saturation au centre de l'écran est empêchée, de sorte qu'il est possible d'identifier un objet proche.

- Désactiver : Désactive le mode IR.
- Auto 1 : Selon la luminosité de l'objet au centre de l'écran, la luminosité IR est automatiquement ajustée.

- Auto 2 : En fonction de la luminosité des objets au centre de l'écran et à proximité, la luminosité IR est automatiquement ajustée.
- Manuel : Ajuste manuellement la luminosité IR.

Niveau

Définir le niveau IR.

Le niveau IR est activé lorsque le [Mode] est défini sur [Manuel].

Heure d'activation

Une caméra fonctionne toujours avec un préréglage d'image spécifique. Vous pouvez régler le préréglage de l'image désirée à l'heure désirée.

Désactivé

La caméra fonctionne à l'heure sélectionnée dans le préréglage de l'image.

Heure programmée uniquement

Vous pouvez choisir de permettre à un utilisateur d'exécuter un préréglage d'image souhaité à une heure spécifique. Sélectionner un préréglage d'image et définir les heures de début et de fin. Définissez le préréglage d'image pour chaque heure en fonction de l'utilisation de la caméra.

La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation définie est réalisée plusieurs fois au jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Basic]>[Date et heure].

Smart codec

Le Codec Smart est une technologie qui réduit la taille des données d'image en définissant une zone souhaitée par l'utilisateur comme zone de qualité spécifique, tout en gérant d'autres zones à une qualité normale. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Zone d'intérêt manuelle

L'utilisateur peut définir la zone sur l'écran de la caméra. Lorsque vous cliquez et faites glisser sur l'écran avec la souris, une zone en forme de carré sera créée. 5 zones peuvent être définies, mais le chevauchement n'est pas autorisé. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Effacer], toutes les zones définies seront supprimées.

Remarque

- Un Codec Smart peut être défini pour chaque profil vidéo. Si vous définissez [CBR] pour le [Contrôle du débit binaire] dans [Basique] > [Profil vidéo] et que vous réglez [Désactiver] dans [Smart codec], la fonction smart codec ne fonctionnera pas dans le profil.

Configuration du Codec Smart

Qualité

Sélectionnez le niveau de qualité d'une zone définie par l'utilisateur. Vous pouvez vérifier une zone dans le niveau de qualité défini. Le niveau de qualité ajusté d'une zone est toujours supérieur à la qualité normale.

Configuration de la mise au point

L'utilisateur peut définir la mise au point de l'écran manuellement ou automatiquement via Mise au point simple. La mise au point peut également être réinitialisée à la valeur par défaut via [Initialiser mise au point].

Configuration de la mise au point

Initialisation de la mise au point

Pour initialiser la mise au point, cliquez sur le bouton [Initialiser la mise au point]. La mise au point sera ajustée à l'emplacement par défaut.

Mise au point

Cliquez sur le bouton Mise au point sur l'écran et réglez la mise au point manuellement. Si le contrôle automatique de la mise au point n'est pas possible avec une mise au point simple, contrôlez la mise au point manuellement. La valeur affichée sur le bouton fait référence à l'intervalle de déplacement de la mise au point. « 1 » signifie déplacer la mise au point d'un facteur 1, tandis que « 10 » signifie déplacer la mise au point d'un facteur 10. « 100 » signifie déplacer la mise au point d'un facteur 100. « - » rapproche la zone de mise au point et « + » éloigne la zone de mise au point.

Mise au point simple

La mise au point est ajustée automatiquement, en fonction de l'emplacement désigné par l'utilisateur. Lorsque vous définissez l'emplacement de mise au point en cliquant et en faisant glisser sur l'écran avec la souris, puis cliquez sur le bouton [Mise au point simple], N (Proche) et <->F (Loin) sont affichés sur l'écran et la mise au point est contrôlée automatiquement, en fonction de l'emplacement désigné par l'utilisateur.

Remarque

- La fonction de mise au point simple peut ne pas fonctionner correctement en cas de changement soudain (mouvement brusque, disparition) du sujet, en cas de brusque changement de luminosité, si l'image est faiblement contrastée ou si la source de lumière est forte dans les environs.
-

WiseStream

WiseStream est une fonction qui, en analysant la complexité d'une image, peut efficacement réduire la taille des données tout en conservant la qualité. Elle réduit la taille de l'image et économise la bande passante en augmentant le taux de compression, si de nombreux mouvements ne sont pas créés sur l'image capturée par la caméra. Si le mouvement augmente, l'image revient à son état précédent, empêchant la perte d'informations sur l'image. Cette fonction ne convient pas dans un environnement avec beaucoup de mouvement, car l'écran peut mal fonctionner. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

WiseStream

Mode

Vous pouvez sélectionner le taux de compression de l'image avec WiseStream.

- Désactivé : La fonction WiseStream n'est pas utilisée.
- Faible : « Faible » est réglé pour un taux de compression d'image minimal. Le débit binaire est réduit d'environ 15 % par rapport à l'image originale ; la taille des données est également réduite.
- Moyen : « Moyen » est défini pour un taux de compression d'image moyen. Le débit binaire est réduit d'environ 30% par rapport à l'image originale ; la taille des données est également réduite.
- Élevé : « Élevé » est réglé pour le taux de compression d'image maximum. Le débit binaire est réduit d'environ 50 % par rapport à l'image originale ; la taille des données est également réduite.

Remarque

- Pour optimiser les performances de WiseStream, réglez [GOV dynamique] et [FPS dynamique] sur [Activer] dans le menu [Base] > [Profil vidéo]. Avec les fonctions [GOV dynamique] et [FPS dynamique], vous pouvez obtenir à la fois la qualité vidéo et le nombre d'images par seconde.
 - Dans les cas suivants, la fonction WiseStream peut ne pas fonctionner correctement :
 - Si vous changez soudainement d'écran, il se peut que l'affichage de l'écran ne fonctionne pas correctement.
 - Dans un environnement avec beaucoup de changements à l'écran, l'utilisation de la fonction WiseStream n'est pas adéquate.
-

DDNS

Si vous utilisez le DDNS (Dynamic Domain Name Service), vous pouvez définir l'adresse IP de la caméra afin qu'elle soit modifiée en un nom d'hôte général que l'utilisateur pourra facilement retenir. Si l'adresse IP de la caméra est 198.160.0.100, vous pouvez vous connecter à la caméra en entrant un nom d'hôte tel que <http://ddns.hanwha-security.com/camera1> au lieu de l'adresse IP. C'est pratique car l'utilisateur peut se connecter à la caméra avec l'adresse DDNS même si l'adresse IP de la caméra est modifiée.

Le Wisenet DDNS, exclusivité de Hanwha Techwin, ou un DDNS public peuvent servir de DDNS. Entrez les informations DDNS souhaitées et cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Si la connexion au DDNS sélectionné est établie, un message « Réussite » s'affichera, et si la connexion n'est pas établie, un message indiquant « Échec » s'affichera.

Remarque

Pour utiliser le service DDNS, la configuration de la redirection de port pour le DDNS et le routeur doit être effectuée ensemble. Pour la méthode de configuration du transfert de port pour le routeur, voir le manuel d'instructions fourni avec le produit. Lorsque la fonction UPnP découverte est activée, le DDNS ne peut pas être utilisé. La fonction UPnP découverte sera activée lorsque l'option [UPnP découverte] sera réglée sur [Activer] dans [Réseau]>[Configurer IP automatique].

DDNS

Désactivé

Sélectionnez cette option si vous ne souhaitez pas utiliser DDNS.

Wisenet DDNS

Sélectionnez cette option lorsque vous utilisez le serveur DDNS fourni par Hanwha Techwin. Pour utiliser Wisenet DDNS, inscrivez-vous sur la page d'accueil DDNS de Wisenet afin de devenir membre (<http://ddns.hanwha-security.com> (<http://ddns.hanwha-security.com>)) et enregistrez le produit sur [Mon DDNS]>[Enregistrer le produit].

- Nom de serveur : Entrez le nom de serveur DDNS que vous souhaitez utiliser.
- ID produit : Entrez l'ID du produit enregistré sur le serveur Wisenet DDNS. Si l'option [Connexion rapide] est sélectionnée lorsqu'un routeur compatible avec la fonction UPnP (Universal Plug and Play) est utilisé, elle prend en charge l'ouverture automatique du port en cas de connexion depuis l'extérieur.

Remarque

- Si le routeur ne prend pas en charge la fonction UPnP ou si vous souhaitez utiliser le serveur DDNS sans vous servir de l'option [Connexion rapide], réglez le transfert de port du routeur sur manuel. Pour la méthode de configuration du transfert de port pour le routeur, reportez-vous au manuel d'instructions inclus dans le produit.

DDNS public

Sélectionnez cette option lorsque vous utilisez un serveur DDNS fourni par un site web public. Utilisez-le après vous être inscrit au service sur le site web concerné.

- Nom de serveur : Sélectionnez le serveur DDNS public que vous souhaitez utiliser.
- Nom d'hôte : Entrez un nom d'hôte enregistré sur le serveur DDNS.
- Nom d'utilisateur : Entrez le nom d'utilisateur pour le serveur DDNS.

- Mot de passe : Entrez le mot de passe pour le serveur DDNS.



Filtre IP

Vous pouvez préparer une liste d'adresses IP pour autoriser ou rejeter la connexion d'une adresse IP spécifique. Les adresses IP sont gérées séparément entre IPv4 et IPv6. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Type de filtrage

Les conditions de filtrage [Interdire] et [Autoriser] s'appliquent à toutes les adresses IP enregistrées.

- Interdire : Interdit l'accès à une adresse IP enregistrée.
- Autoriser : Autorise l'accès à une adresse IP enregistrée

Remarque

- Lorsqu'une adresse IP autorisée est enregistrée, l'adresse IP actuellement connectée à la caméra doit également être enregistrée. En particulier, lorsque [Activer] est sélectionné pour [Général]>[IP & Port]>[[Configuration IPv6](#)], toutes les adresses IPv4 et IPv6 des adresses IP actuellement connectées doivent être ajoutées.
- Une adresse IP actuellement connectée ne peut pas être enregistrée sous [Interdire].

IPv4

Il s'agit de la liste d'adresses pour les types IPv4 ; une adresse IP peut être ajoutée ou supprimée. Jusqu'à 10 adresses IP peuvent être entrées.

Ajouter une adresse IPv4

1. Cliquez sur le bouton [Ajouter]. Un champ où une adresse IPv4 peut être entrée sera créé.
2. Entrez l'IP et le préfixe. La plage de filtrage pour les informations saisies va apparaître.
3. Le filtrage pour la plage concernée n'est possible qu'après avoir coché la case [Utiliser].
4. Cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page pour sauvegarder toutes les informations ajoutées à la liste.

Supprimer une adresse IPv4

1. Sélectionnez une adresse IPv4 que vous souhaitez supprimer.
2. Cliquez sur le bouton [Effacer].
3. Cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression. L'adresse IPv4 sera supprimée.

Remarque

- Les adresses de 224.0.0.0 à 239.255.255.254, qui sont utilisées pour la multidiffusion, ne sont pas disponibles.

IPv6

Il s'agit de la liste d'adresses pour les types IPv6 ; une adresse IP peut être ajoutée ou supprimée. Jusqu'à 10 adresses IP peuvent être entrées.

Ajouter une adresse IPv6

1. Cliquez sur le bouton [Ajouter]. Un champ où une adresse IPv6 peut être entrée sera créé.
2. Entrez l'IP et le préfixe. La plage de filtrage pour les informations saisies va apparaître.
3. Le filtrage pour la plage concernée n'est possible qu'après avoir coché la case [Utiliser].
4. Cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page pour sauvegarder toutes les informations ajoutées à la liste.

Supprimer une adresse IPv6

1. Sélectionnez une adresse IPv6 que vous souhaitez supprimer.
 2. Cliquez sur le bouton [Effacer].
 3. Cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression. L'adresse IPv6 sera supprimée.
-

HTTPS

Vous pouvez sélectionner un système de connexion sécurisé ou installer un certificat public. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Système de connexion sécurisé

Le système de connexion sécurisé est sélectionné en fonction de l'environnement de service en tenant compte du niveau de sécurité. HTTPS (protocole de transfert hypertexte sur couche des sockets sécurisés) échange des données via le cryptage et le décryptage de la demande de page de l'utilisateur au niveau de la sous-couche SSL en dessous de la couche de protocole de transfert hypertexte. Par conséquent, il est considéré comme plus sécurisé que le mode HTTP. Vous pouvez choisir si un certificat unique ou public est utilisé pour une connexion sécurisée en mode HTTPS.

HTTP (Ne pas util. connex. sécu.)

Sélectionnez lors de l'envoi de données sans cryptage

HTTPS (Mode de connex. sécurisée avec certificat unique)

Établit une connexion sécurisée en utilisant un certificat unique fourni par la caméra. Lorsque vous sélectionnez [HTTPS (mode de connexion sécurisée à l'aide d'un certificat unique)] et cliquez sur le bouton [Appliquer] au bas de la page, une connexion sécurisée s'établit en mode HTTPS.

HTTPS (Mode de connex. sécurisée avec certificat public)

Établit une connexion sécurisée à l'aide du certificat public. Vous pouvez sélectionner ceci après l'installation du certificat public. Lorsque vous sélectionnez [HTTPS (mode de connexion sécurisée à l'aide du certificat public)] et cliquez sur le bouton [Appliquer] au bas de la page, une connexion sécurisée s'établit en mode HTTPS.

Installer un certificat public Pour sélectionner [HTTPS (Certificat public utilisé)] dans [Système de connexion sécurisée], vous devez d'abord installer un certificat public.

- Nom du certificat : Saisissez le nom du certificat à installer.
- fichier certificat : Sélectionnez le répertoire d'installation du certificat.
- Fichier clé : Sélectionnez le répertoire d'installation du fichier clé.

Remarque

- Vous ne pouvez ni installer ni supprimer de certificat public lorsque le mode [HTTPS (Certificat public en cours d'utilisation)] est activé. Après être passé en mode [HTTP (accès sécurisé non utilisé)] ou [HTTPS (certificat privé en cours d'utilisation)], assurez-vous d'installer ou de supprimer le certificat.

Installation d'un certificat public

1. Saisissez le nom du certificat à installer dans [Nom du certificat].
2. Cliquez sur le bouton [...] dans [Fichier certificat], sélectionnez un fichier de certificat dans la fenêtre ouverte et cliquez sur le bouton [Ouvrir].
3. Cliquez sur le bouton [...] dans le fichier clé, sélectionnez un fichier clé dans la fenêtre ouverte et cliquez sur le bouton [Ouvrir].
4. Cliquez sur le bouton [Installer]. L'installation du certificat est terminée.

Suppression d'un certificat public

Cliquez sur le bouton [Supprimer] en bas de [Installer un certif. public].

802.1x

Vous pouvez choisir d'utiliser ou non le protocole 802.1x lors de la connexion à un réseau, et installer les certificats. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Paramètre IEEE 802.1x

IEEE 802.1x

Pour utiliser le protocole IEEE 802.1x afin de se connecter au réseau, sélectionnez [Activer]. IEEE 802.1x fait partie du groupe de protocole réseau appelé IEEE 802.1 et sert de norme IEEE en matière de contrôle d'accès au réseau basé sur les ports (PNAC). IEEE 802.1x est principalement utilisé afin de renforcer la sécurité dans un environnement LAN sans fil (Wi-Fi).

Type d'EAP

EAP (Extensible Authentication Protocol) est un mode d'authentification régulé dans les réseaux sans fil et les protocoles point-à-point, et il est conçu pour être facilement extensible. Le mode LEAP est un mode d'authentification à faible sécurité, il est donc recommandé uniquement pour les environnements dans lesquels EAP-TLS ne peut pas être utilisé.

- EAP-TLS : EAP-TLS (Transport Layer Security) effectue une authentification mutuelle qui nécessite un certificat client avec le serveur. Une clé WEP dynamique est utilisée pour des raisons de sécurité une fois que la connexion est établie.
- LEAP : LEAP (Lightweight Extensible Authentication Protocol) ne nécessite pas de certificat et utilise uniquement une clé WEP dynamique, un mot de passe fort doit donc être utilisé.

Version EAPOL

Sélectionnez [1] ou [2] pour la version de [EAPOL] (EAP over LANs) utilisée dans le commutateur réseau.

ID

Entrez l'identifiant du certificat client pour [EAP-TLS] et l'identifiant de l'utilisateur pour [LEAP].

Mot de passe

Entrez la clé privée client pour [EAP-TLS] et le mot de passe de l'utilisateur pour [LEAP]. Ceci n'est pas nécessaire si une clé non cryptée est utilisée dans [EAP-TLS].

Remarque

- Si l'équipement du réseau connecté ne prend pas en charge le protocole 802.1x, il risque de ne pas fonctionner correctement même si [Utiliser] est défini pour 802.1x.

Certificats

Les certificats sont nécessaires uniquement lorsque [EAP-TLS] est utilisé. Vous pouvez installer ou supprimer les certificats et les clés concernés.

- Certificats CA : Sélectionnez si les certificats CA incluent une clé ouverte.
- Certificat client : Sélectionnez si les certificats CA incluent une clé d'authentification client.
- Clé privée client : Sélectionnez si les certificats CA incluent une clé privée client.

Installer un certificat

1. Cliquez sur le bouton [...], sélectionnez un certificat ou une clé, puis cliquez sur le bouton [Ouvrir].
2. Cliquez sur le bouton [Installer]. Une fois l'installation du certificat terminée, un message indiquant « Installé » s'affiche.

Supprimer un certificat

Cliquez sur le bouton [Effacer] à côté de la clé ou du certificat installé. Lorsqu'un certificat ou une clé est supprimé, un message indiquant « Non disponible » s'affiche.

QoS

QoS (qualité de service) est la fonction qui définit la priorité de la transmission de données et sécurise la qualité de la transmission de données selon les priorités définies en cas de surcharge (augmentation simultanée du trafic, panne réseau, etc.) sur le réseau. Une adresse IP QoS peut être saisie en IPv4 ou IPv6. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

IPv4

Une adresse IP QoS peut être ajoutée ou supprimée dans IPv4. Les valeurs par défaut sont 32 pour Préfix et 63 pour DSCP.

- Préfix : Cette valeur peut définir la plage IP et une valeur comprise entre 1 et 32 peut être définie dans IPv4.
- DSCP: La priorité QoS est DSCP (service différencié à point de code). Une valeur de 0 à 63 peut être définie pour la valeur DSCP. Lorsque la valeur se rapproche de 0, la priorité diminue.

Remarque

- Les adresses de 224.0.0.0 à 239.255.255.254, qui sont utilisées pour la multidiffusion, ne sont pas disponibles.

Ajouter une adresse IPv4

1. Cliquez sur le bouton [Ajouter]. Un champ où une adresse IPv4 peut être entrée sera créé.
2. Entrez les informations IP, le Préfix et le DSCP.
3. La qualité de service peut être appliquée à l'adresse IPv4 pertinente uniquement après avoir sélectionné la case [Utilisation].
4. Cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page pour sauvegarder toutes les informations ajoutées à la liste.

Supprimer une adresse IPv4

1. Sélectionnez une adresse IPv4 que vous souhaitez supprimer.
2. Cliquez sur le bouton [Effacer].
3. Cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression. L'adresse IPv4 sera supprimée.

IPv6

Une adresse IP QoS peut être ajoutée ou supprimée dans IPv6. Les valeurs par défaut sont 128 pour Préfix et 63 pour DSCP.

- Préfix : Cette valeur peut définir la plage IP. Une valeur comprise entre 1 et 128 peut être définie dans IPv6.
- DSCP: La priorité pour QoS est DSCP (service différencié à point de code). Une valeur de 0 à 63 peut être définie pour la valeur DSCP. Lorsque la valeur se rapproche de 0, la priorité diminue.

Ajouter une adresse IPv6

1. Cliquez sur le bouton [Ajouter]. Un champ où une adresse IPv6 peut être entrée sera créé.
2. Entrez les informations IP, le Préfix et le DSCP.
3. La qualité de service peut être appliquée à l'adresse IPv6 pertinente uniquement après avoir sélectionné la case [Utilisation].
4. Cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page pour sauvegarder toutes les informations ajoutées à la liste.

Supprimer une adresse IPv6

1. Sélectionnez une adresse IPv6 que vous souhaitez supprimer.
 2. Cliquez sur le bouton [Effacer].
 3. Cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression. L'adresse IPv6 sera supprimée.
-

SNMP

SNMP (protocole de gestion de réseau simple) est un protocole de gestion de réseau qui peut collecter des informations à partir de l'équipement sur le réseau et gérer le réseau. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

SNMP v1 / v2c

Le protocole SNMP v1 n'est pas crypté et n'a pratiquement aucune fonction de sécurité. Il a également tendance à utiliser une bande passante excessive, donc s'il y a beaucoup d'équipement, il pourrait être difficile de gérer le réseau. Un algorithme a été ajouté au protocole SNMP v2c pour la sécurité des données et de l'authentification, permettant une bande passante plus efficace qu'avec SNMP v1.

SNMP v1

Pour utiliser SNMP v1, sélectionnez [Activer].

SNMP v2c

Pour utiliser SNMP v2c, sélectionnez [Activer]. Lorsque [SNMP v2c] est sélectionné, les Communautés de lecture et d'écriture sont activées.

Communauté de lecture

Saisissez le nom de la communauté de lecture seule pour accéder aux informations SNMP. La valeur par défaut est public.

Communauté d'écriture

Saisissez le nom de la communauté d'écriture seule pour accéder aux informations SNMP. La valeur par défaut est écriture.

SNMP v3

L'authentification SNMP v3 a une sécurité renforcée par rapport à v1 et v2c. La transmission sans transformation de données est possible. Le paquet est également chiffré pour empêcher les utilisateurs non autorisés d'accéder aux données. [HTTPS] doit être défini pour [Système de connexion sécurisée] afin d'utiliser SNMP v3.

SNMP v3

Pour utiliser SNMP v3, sélectionnez [Activer].

Mot de passe

Définissez le mot de passe de l'utilisateur pour SNMP v3. Les mots de passe doivent comporter entre 8 et 16 caractères. La sécurité du mot de passe par défaut est faible, il est donc fortement recommandé de le changer pour un nouveau mot de passe immédiatement après installation du produit. Les utilisateurs sont responsables de la sécurité et autres problèmes liés à l'utilisation continue du mot de passe par défaut.

i Remarque

- L'échec de l'utilisation de SNMP v3 peut entraîner des problèmes de sécurité.
- Pour utiliser SNMP v3, Syst. de connexion sécu. doit être réglé sur le mode « [HTTPS] ». Allez à [Réseau] > [HTTPS] > [Syst. de connexion sécu.] , puis sélectionnez [HTTPS (Mode de connexion sécurisée avec certificat unique)] ou [HTTPS (Mode de connexion sécurisée avec certificat public)].

Pièges SNMP

Un piège SNMP est une fonction qui délivre des événements spécifiques dans l'équipement sur le réseau au système de gestion.

Pièges SNMP

Pour utiliser le piège SNMP, sélectionnez [Activer].

Communauté

Saisissez le nom de la communauté de piège qui reçoit le message.

Adresse IP

Saisissez l'adresse IP de l'utilisateur qui envoie le message.

- Échec de l'authentification : Indiquez si vous souhaitez ou non envoyer un événement au système de gestion lorsque les informations de la communauté sont incorrectes.
 - Connexion au réseau : Définissez si vous souhaitez ou non envoyer un événement au système de gestion lorsque le réseau déconnecté est reconnecté.
-

Configuration IP automatique

Vous pouvez définir l'IP de la caméra automatiquement. Vous pouvez attribuer une adresse IP pouvant être connectée à une caméra supplémentaire sur le même réseau local ou définir l'adresse IP de la caméra afin de chercher une caméra connectée au réseau sur Windows ou Mac OS. Lorsque vous avez terminé le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Lien vers l'adresse locale en IPv4

Vous pouvez attribuer une adresse IP supplémentaire pouvant être connectée à une caméra du même réseau local.

Configuration automatique

Pour utiliser la configuration automatique d'un lien vers l'adresse locale en IPv4, sélectionnez [Activer].

- Adresse IP : L'adresse IP attribuée est affichée.
- Masque de sous-réseau : Le masque de sous-réseau de l'adresse IP attribuée est affiché.

Découverte UPnP

Vous pouvez chercher automatiquement une caméra à partir des clients et du système d'exploitation prenant en charge le protocole UPnP (Universal Plug and Play).

Découverte UPnP

Pour utiliser la découverte UPnP, sélectionnez [Activer].

- Nom convivial : Le nom de la caméra est affiché. Le nom convivial est affiché dans l'ordre suivant : WISENET - nom du modèle - adresse MAC.

Bonjour

Vous pouvez chercher automatiquement une caméra à partir des clients et du système d'exploitation prenant en charge le protocole Bonjour. Les caméras connectées sont affichées dans le signet Bonjour du navigateur Web Safari sous Mac OS, qui prend en charge Bonjour par défaut.

Bonjour

Pour utiliser Bonjour, sélectionnez [Activer].

- Nom convivial : Le nom de la caméra est affiché. Le nom convivial est affiché dans l'ordre suivant : WISENET - nom du modèle - adresse MAC.

Remarque

- Si le signet ne s'affiche pas, cochez la case Favoris dans le menu « Préférences ».

Config. évén.

Vous pouvez gérer les événements et la configuration des actions de l'événement pris en charge par la caméra dans un emplacement. Lorsque vous modifiez la configuration des actions de l'événement sur la page en cours, la configuration des actions de l'événement de la page de configuration détaillée de chaque événement est également modifiée. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Liste évén.

- Utilisation : Lorsque les cases à cocher de la colonne [Utilisation] sont sélectionnées, seuls les événements sélectionnés fonctionneront.
- Type : Sélectionner un nom d'événement dans la colonne [Type] vous amènera à la page de configuration détaillée de l'événement concerné.
- Configuration des actions de l'événement : Détermine la configuration des actions de l'événement sera effectuée par la caméra lorsqu'un événement est créé.
 - FTP: Pour capturer et envoyer une image d'un écran à un serveur FTP, cochez la case dans la colonne [FTP]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].
 - E-mail : Pour capturer et envoyer un image de l'écran par e-mail, cochez la case dans la colonne [E-mail]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].
 - Enregistrer : Pour enregistrer une image, cochez la case dans la colonne [Enregistrer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].
 - Émission d'alerte : Sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte lorsqu'un événement est créé ; sélectionnez l'heure appropriée si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

Remarque

- La colonne d'émission d'alerte est affichée différemment selon le nombre d'alarmes prises en charge par la caméra. Par exemple, si le nombre d'alarmes à émettre est 2, les colonnes « Émission d'alerte 1 » et « Émission d'alerte 2 » sont affichées et l'émission d'alerte pour chaque événement peut être définie.
-

Transfert

Le relais est une fonction permettant à la caméra récepteur de passer à la position PTZ prédéfinie lorsqu'un événement se produit. Sur cette page, vous pouvez régler la caméra et la position prédéfinie afin qu'elles passent à la position prédéfinie. Lorsque vous aurez terminé les réglages, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Caméra récepteur

Vous pouvez ajouter ou supprimer des caméras PTZ pour la réception. Jusqu'à 32 caméras récepteurs peuvent être enregistrées.

Les informations des caméras enregistrées en tant que caméra récepteur sont affichées.

Comment ajouter une caméra récepteur

1. Cliquez sur le bouton [Ajouter].
2. Dans la fenêtre [Ajouter caméra], entrez les informations sur la caméra PTZ afin de recevoir le relais.
 - No. : Définissez le numéro de la caméra récepteur. Dans le sous-menu [Analyse], le numéro de la caméra récepteur est utilisé lors du réglage de la caméra récepteur de relais.
 - Type d'IP : Réglez le type d'adresse IP entre IPv4 et IPv6.
 - Adresse IP : Entrez l'adresse IP de la caméra récepteur.
 - Port : Entrez le numéro de port de la caméra récepteur.
 - Utilisateur : Entrez l'identifiant d'accès afin d'accéder à la caméra récepteur.
 - Mot de passe : Entrez le mot de passe afin d'accéder à la caméra récepteur.
 - Préréglage n° : Entrez le numéro prédéfini de la position à laquelle la caméra récepteur passera. Le numéro prédéfini doit être réglé à l'avance dans la caméra PTZ de réception. Dans le menu de relais, entrez le numéro PTZ prédéfini.
3. Cliquez sur [Appliquer].

Comment supprimer une caméra récepteur

1. Cliquez sur une case à cocher dans la liste des caméras récepteur et sélectionnez la caméra que vous souhaitez supprimer.
 2. Cliquez sur le bouton [Effacer] et lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur [OK].
-

FTP/E-mail

Lorsqu'un événement est créé alors que la caméra capture une image, l'image capturée peut être envoyée sur un serveur FTP ou par e-mail. Entrez les informations appropriées sur le serveur FTP et sur la configuration e-mail à utiliser.

Lorsque vous entrez des informations sur le serveur FTP ou le serveur e-mail et que vous cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page, un test de connexion au serveur FTP ou un test e-mail sera réalisé. Si une adresse de serveur FTP ou une adresse de serveur e-mail incorrecte est saisie, un message indiquant « Échec » s'affichera.

Configuration FTP

Adresse du serveur

Entrez l'adresse IP du serveur FTP où une image de création d'événement sera envoyée.

ID

Entrez l'identifiant du compte de connexion au serveur FTP.

Mot de passe

Entrez le mot de passe du compte de connexion au serveur FTP.

Télécharger le répertoire

Entrez le répertoire du serveur FTP où une image de création d'événement sera enregistrée.

Port

Entrez la valeur de port du serveur FTP. La valeur de port par défaut du serveur FTP est 21, elle peut être modifiée en fonction des paramètres du serveur FTP. Le port peut être modifié dans une plage de 1 à 65535.

Mode passif

Sélectionnez [Activer] lorsque la connexion en mode passif est nécessaire en raison de la configuration du pare-feu ou du serveur FTP.

Configuration E-mail

Adresse du serveur

Entrez l'adresse du serveur SMTP d'e-mail pour envoyer une image de création d'événement par e-mail.

Authentification

Choisissez si vous souhaitez ou non vous authentifier avec un identifiant et un mot de passe chaque fois qu'un e-mail est envoyé.

Utilisation TLS

Choisissez si vous souhaitez ou non utiliser le TLS. Sélectionnez [Activer] si vous utilisez un serveur e-mail nécessitant une sécurité.

ID

Entrez l'identifiant du compte connecté au serveur SMTP d'e-mail.

Mot de passe

Entrez le mot de passe du compte connecté au serveur SMTP d'e-mail.

Port

Entrez la valeur de port du serveur SMTP d'e-mail. La valeur de port par défaut du serveur e-mail est 25, la valeur du port lors de l'utilisation du TLS est 465.

Destinataire

Entrez l'adresse e-mail du destinataire de l'e-mail.

Expéditeur

Entrez l'adresse e-mail de l'expéditeur de l'e-mail. Si l'adresse de l'expéditeur est incorrecte, le destinataire prévu peut ne pas recevoir l'e-mail.

Objet

Entrez l'objet de l'e-mail à envoyer lors de la création d'un événement.

Message

Entrez les informations du corps de l'e-mail à envoyer lorsqu'un événement est créé. Lorsqu'un événement est créé, l'image capturée sera envoyée comme pièce jointe à un e-mail.

Stockage

Vous pouvez sélectionner un périphérique pour capturer une image de caméra et définir les conditions d'enregistrement. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Config. action stockage

La sélection d'un périphérique d'enregistrement et la sélection de [Activé] vous permettent de modifier les paramètres de l'appareil concerné.

Si des données sont en cours d'enregistrement sur l'appareil, « Enregistrement » s'affiche dans [État] dans la liste des appareils. Lorsque « Erreur » s'affiche dans [État], vérifiez que le périphérique d'enregistrement est correctement connecté.

Lorsque [Activé] est défini pour une carte SD et un NAS en même temps, le NAS est traité en priorité.

- SD: Vous pouvez choisir d'utiliser ou non une carte SD. Lorsqu'une carte SD est reconnue, l'espace libre, la capacité totale et l'état sont affichés. Pour formater la carte SD, cliquez sur le bouton [Formater].
- NAS: Vous pouvez choisir d'utiliser le NAS (Network Attached Storage - stockage lié au réseau) ou non. Lorsqu'une connexion au NAS est établie, l'espace libre, la capacité totale et l'état sont affichés. Pour formater le dossier par défaut sur le NAS, cliquez sur le bouton [Formater].

Réécrire

Définit s'il faut ou non utiliser la fonction de réécriture d'une carte SD ou d'un NAS.

Lorsque la capacité du périphérique a été atteinte, de nouvelles données seront enregistrées sur les données les plus anciennes. Lorsque la capacité de l'appareil est atteinte, un message indiquant « Plein » s'affiche dans [État] dans la liste des appareils.

Suppression automatique

Définit s'il faut ou non utiliser la fonction de suppression automatique. Les données les plus récentes pour le nombre de jours défini sont conservées et le reste sera supprimé. Le nombre de jours de suppression automatique peut être défini entre 1 et 180. La fonction [Suppression automatique] est activée uniquement lorsque [Activer] est défini pour [Réécrire].

Remarque

- Lorsque « Erreur » s'affiche dans [État] dans la liste des appareils, vérifiez que l'appareil d'enregistrement est correctement connecté, que le système de fichiers de l'appareil d'enregistrement n'est pas endommagé et que l'appareil d'enregistrement n'est pas physiquement endommagé. Si le message « Erreur » persiste après vérification de l'appareil d'enregistrement, formatez ou remplacez l'appareil.
- L'enregistrement peut ne pas être possible en raison d'une déconnexion temporaire du réseau lorsque le NAS est utilisé, il est donc recommandé d'utiliser également une carte SD.
- Lorsque la résolution, le débit binaire et la fréquence d'images sont élevés, la quantité de données d'image augmente également. Si la quantité de données augmente, un saut d'image peut se produire même en mode image complète. En cas de saut d'image, l'image est enregistrée à un taux minimum d'une image par seconde.

- Avant de retirer la carte micro SD, cliquez d'abord sur [Désactiver]. Si vous la retirez de vous même ou si vous mettez la caméra sous tension alors que la source d'électricité est instable, sans cliquer sur [Désactiver], la carte micro SD risque d'être endommagée.
- Si vous utilisez la carte mémoire micro SD en dessous de la vitesse recommandée, cela peut provoquer un saut d'image. Si vous utilisez la carte mémoire micro SD avec une trop grande capacité, cela peut ralentir la vitesse du format.
- Si vous utilisez un NAS, la suppression automatique n'est prise en charge que lorsque la capacité du NAS est supérieure aux spécifications recommandées.
- Les données supprimées ne peuvent pas être restaurées.

Système de fichiers SD

Ce menu s'affiche uniquement lorsque [Carte SD] est sélectionné dans la colonne[Périphérique] de [Config. action stockage], ce qui vous permet de sélectionner le système de fichiers sur la carte SD. Les cartes SD prennent en charge les systèmes de fichiers VFAT et EXT4. Sélectionnez le système de fichiers en fonction de la carte SD de la caméra que vous utilisez. Si le système de fichiers de la carte SD est EXT4, Windows ne peut le reconnaître que lorsqu'une application distincte est installée.

Type

Sélectionnez VFAT ou EXT4 pour le système de fichiers de la carte SD. Lorsque la configuration est modifiée, toutes les données existantes seront formatées. Veillez à sauvegarder les données avant de modifier la configuration.

Remarque

- Les cartes SD à haute endurance sont recommandées. Pour plus d'informations, reportez-vous au site Web de Hanwha Techwin.
- Le formatage de la carte micro SD avec le système de fichiers EXT4 peut prendre jusqu'à 10 minutes.

Configuration de la connexion NAS

Ce menu s'affiche uniquement lorsque [NAS] est sélectionné dans la colonne[Périphérique] de [Config. action stockage] et que les informations d'accès au NAS sont saisies. Entrez les informations NAS et cliquez sur le bouton [Test] pour voir si la connexion au NAS est établie. Si une connexion est établie, le message « Succès » s'affiche. Si aucune connexion n'est établie, le message « Échec » s'affiche.

Adresse IP

Entrez l'adresse IP du NAS.

ID

Entrez l'identifiant du compte enregistré sur NAS.

Mot de passe

Entrez le mot de passe pour le compte enregistré sur NAS.

Dossier par défaut

Désigner le dossier par défaut où le NAS enregistrera les données d'image.

Remarque

- Si un message d'erreur s'affiche lorsque vous testez après avoir saisi les informations NAS, vérifiez les éléments suivants :
 - Vérifiez que l'adresse IP, l'identifiant, le mot de passe et le dossier NAS par défaut sont correctement saisis.
 - Vérifiez que le type d'adresse IP du NAS et le type d'adresse IP de la caméra sont identiques. (par exemple : La valeur par défaut de NAS et de la caméra est 255.255.255.0. Si l'adresse IP est 192.168.20.32, l'adresse IP du NAS doit être comprise entre 192.168.20.1 et 192.168.20.255.)
 - Pour le dossier par défaut NAS, un seul dossier doit être utilisé dans une caméra, sans duplication.
 - Vérifiez que le périphérique est un équipement recommandé par NAS. Reportez-vous à « Spécifications recommandées du NAS » dans le manuel de l'utilisateur.
- Si [Réécrire] dans la configuration de stockage pour NAS n'est pas utilisé et que l'espace libre pour NAS est inférieur à 20 %, les images seront enregistrées sur la carte SD.
- Si une carte SD utilisée dans un autre appareil photo est insérée alors que des données sont en cours d'enregistrement sur le NAS, les images risquent de ne pas être enregistrées.
- Si la configuration du NAS est modifiée pendant l'enregistrement des données sur le NAS, la modification ne s'applique pas immédiatement.
- Si l'équipement NAS est retiré ou si la connexion réseau est interrompue alors que des données sont en cours d'enregistrement sur le NAS, l'action d'enregistrement NAS peut être interrompue.
- Lorsque la résolution, le débit binaire et le débit d'images sont réglés à un niveau élevé, la quantité de données d'image augmente également. Si la quantité de données augmente, un saut d'images peut se produire même si la vitesse d'enregistrement est réglée sur la vitesse d'enregistrement maximale. En cas de saut d'image, au moins une image est sauvegardée par seconde.
- Vérifiez si vous essayez d'accéder en tant qu'autre utilisateur sans formater le dossier par défaut qui est déjà enregistré ou utilisé.

Paramètres d'enregistrement

Enregistrer le profil

Le nom du profil vidéo qui sera utilisé pour l'enregistrement s'affiche. Le profil défini comme « Profil d'enregistrement » dans [Base]>[Profil vidéo] > [Type de profil] s'affiche.

Enregistrement normal

Ceci définit l'enregistrement normal sans événement.

- Aucun : Aucune image de caméra n'est enregistrée.
- Image-I : Enregistre une image-I uniquement pour l'enregistrement normal.
- Plein format : Enregistre une image complète en enregistrement normal.

Enregistrement d'événements

Définit le type d'enregistrement lorsqu'un événement se produit.

- Image-I : Enregistre uniquement une image-I lorsqu'un événement se produit.
- Plein format : Enregistre une image complète lorsqu'un événement se produit.

Durée pré-événement

Définit la durée d'enregistrement de l'image avant qu'un événement se produise. Une image peut être enregistrée 1 seconde, 3 secondes et 5 secondes avant l'apparition d'un événement.

Durée post-événement

Définit la durée d'enregistrement de l'image après un événement. Une image peut être enregistrée pendant 5 secondes, 10 secondes, 30 secondes, 60 secondes ou 120 secondes après l'occurrence d'un événement.

Type de fichier enregistré

Définit le format de fichier pour l'enregistrement d'une image. Lorsque le format d'enregistrement de fichier est modifié, les données existantes sont effacées.

- STW: C'est le type de fichier unique pour Hanwha Techwin.
- AVI: Ceci est un fichier AVI.

Config. enreg. normal

Vous pouvez définir l'heure d'enregistrement d'une image sur l'appareil d'enregistrement.

Toujours

Toujours enregistrer une image sur l'appareil d'enregistrement.

Heure programmée uniquement

Enregistre une image uniquement à l'heure programmée. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Émission d'alerte

Définit comment contrôler une alarme lorsqu'une alarme est émise par l'utilisateur ou lorsqu'un événement est créé. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration de l'événement d'émission d'alerte s'applique à [Émission d'alerte] sur les pages [Événement]>[Configuration de l'événement] de la même manière.

N° de sortie d'alarme

Vous pouvez sélectionner un numéro de sortie d'alarme et modifier le réglage détaillé de chaque émission d'alerte.

Le nombre d'émissions d'alerte prises en charge peut varier en fonction de la caméra.

Le numéro d'émission d'alerte est affiché en fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par la caméra.

Émission d'alerte

Type

Sélectionne le type d'émission d'alerte.

- N.O. (Ouverture normale) : Le capteur d'émission d'alerte est ouvert par défaut et lorsqu'il est fermé, une alarme est émise.
- N.C. (Fermeture normale) : Le capteur d'émission d'alerte est fermé par défaut et lorsqu'il est ouvert, une alarme est émise.

Mode

Définit le type de contrôle lorsqu'une alarme est émise.

- Impulsion : Une alarme est émise pendant la durée définie dans [Durée] et l'alarme s'éteint automatiquement.
- Actif/Inactif : Lorsque vous appuyez sur le bouton d'émission d'alerte sur l'écran de surveillance, une alarme s'enclenche ; lorsque vous appuyez à nouveau sur le bouton, l'alarme s'éteint.

Durée

Définit l'heure d'émission de l'alerte lorsque [Impulsion] est sélectionné dans [Mode].

Entrée d'alerte

Lorsqu'une alarme est connectée, un événement d'entrée d'alerte peut être créé. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Le réglage de l'événement d'entrée d'alerte s'applique à [Entrée d'alerte] sur les pages [Événement]>[Configuration de l'événement] de la même manière.

N° d'entrée d'alerte

Vous pouvez sélectionner un numéro d'entrée d'alerte et modifier le réglage détaillé de chaque entrée d'alerte. Le nombre d'entrées d'alertes prises en charge peut varier en fonction de la caméra.

Configuration du périphérique d'entrée

Configuration du périphérique d'entrée

Pour utiliser un périphérique d'alarme sélectionné dans [N° d'entrée d'alerte], sélectionnez [Activer].

Type

Sélectionnez le type d'entrée d'alerte.

- N.O. (Ouverture normale) : Le capteur d'entrée d'alerte est ouvert par défaut ; lorsqu'il est fermé, un événement d'entrée d'alerte est créé.
 - N.C. (Fermeture normale) : Le capteur d'entrée d'alerte est fermé par défaut et lorsqu'il est ouvert, un événement d'entrée d'alerte est créé.
-

Config. action évén

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Vous pouvez régler l'émission d'alerte sur un numéro d'alarme spécifique lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte]. En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Ceci définit la configuration des actions de l'événement de [Configuration des actions de l'évènement] pour qu'elle fonctionne toujours, ou uniquement à l'heure définie lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement est toujours exécutée lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement est exécutée lorsqu'un événement d'entrée d'alerte est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Programmation heure

L'événement de programmation heure peut envoyer un fichier image en fonction de la configuration des actions de l'événement dans l'intervalle de transfert. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Le réglage de l'événement de programmation heure s'applique à [Programmation heure] dans les pages [Événement]>[\[Configuration de l'événement\]](#) de manière égale.

Configuration d'un événement programmé

Pour utiliser le programme de programmation d'événements, sélectionnez [Activer].

Intervalle de transfert

Définit l'intervalle de transfert d'une image. Ceci définit le nombre de secondes ou de minutes pendant lesquelles chaque image est créée en tant qu'événement. Cliquez sur le menu déroulant et sélectionnez un nombre et une unité.

Remarque

- L'image ne peut être transmise que si l'intervalle de transfert est inférieur à l'intervalle de fonctionnement dans les Config. action évén..

Config. action évén

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de programmation heure est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[\[FTP/E-mail\]](#).

Temps d'activation d'évènement

Cela définit la configuration des actions de l'événement dans [\[Configuration des actions de l'événement\]](#) pour qu'elle fonctionne en permanence ou uniquement à l'heure définie lorsqu'un événement de programmation heure est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement est toujours exécutée lorsqu'un événement de programmation heure est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement est exécutée uniquement lorsqu'un événement de programmation heure est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés. Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Déconnexion réseau

Lorsque la connexion réseau est interrompue, un événement peut être créé. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration de l'événement de déconnexion réseau s'applique à [Déconnexion réseau] sur les pages [Événement]>[\[Configuration de l'événement\]](#) de la même manière.

Déconnexion réseau

Pour utiliser l'événement de déconnexion réseau, sélectionnez [Activer].

Config. action évén

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de déconnexion réseau est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[\[Stockage\]](#).

Émission d'alerte

Vous pouvez régler l'émission d'alerte à un nombre d'alarme spécifique lorsqu'un événement de déconnexion réseau est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre l'alarme. Vous pouvez définir une émission d'alarme continue, jusqu'à ce que l'utilisateur arrête l'alarme, en sélectionnant [Toujours], ou régler l'émission de l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[\[Émission d'alerte\]](#).

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Définit la configuration des actions de l'événement dans [\[Configuration des actions de l'événement\]](#) afin qu'elle fonctionne toujours, ou uniquement à l'heure définie lorsqu'un événement de déconnexion réseau est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement est toujours exécutée lorsqu'un événement de déconnexion réseau est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement est exécutée lorsqu'un événement de déconnexion réseau est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Événement Application

Un événement peut être créé selon les règles définies dans l'application installée depuis la [\[Plate-forme ouverte\]](#). Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [\[Appliquer\]](#) en bas de la page. La configuration de l'événement d'application s'applique à [\[Événement App\]](#) sur les pages [\[Événement\]>\[Configuration de l'événement\]](#) de la même manière.

Événement Application	Pour utiliser l'événement d'application, sélectionnez [Activer] .
------------------------------	---

Config. action évén	FTP Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement app est créé, sélectionnez [Activer] . Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail] .
----------------------------	---

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement app est créé, sélectionnez [\[Activer\]](#). Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [\[Événement\]>\[FTP/E-mail\]](#).

Temps d'activation d'évènement	Cela définit la configuration des actions de l'événement dans [Configuration des actions de l'événement] afin qu'elle fonctionne toujours, ou uniquement à l'heure définie lorsqu'un événement d'application est créé.
---------------------------------------	--

Toujours

La configuration des actions de l'événement est toujours exécutée lorsqu'un événement d'application est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement est exécutée lorsqu'un événement d'application est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [\[Heure programmée uniquement\]](#) est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Détection de mouvement

Un événement de détection de mouvement peut être créé lorsqu'une zone de détection de mouvement et la zone exclue sont définies et qu'un mouvement est détecté à l'intérieur de la zone définie par l'utilisateur. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

La configuration de l'événement de détection de mouvement s'applique à [Détection de mouvement] sur les pages [Événement]>[Configuration de l'événement] de la même manière.

Détection de mouvement Activer la détection de mouvement

Pour utiliser l'événement de détection de mouvement, sélectionnez [Activer la détection de mouvement].

Remarque

- La zone de détection de mouvement et la zone exclue sont définies et utilisées en fonction de la taille de la plage du mouvement.
- Dans les cas suivants, les performances de l'événement de détection de mouvement peuvent se détériorer et un dysfonctionnement peut se produire :
 - Si un objet a la même luminosité ou la même couleur que l'arrière-plan sur l'écran
 - Si un petit mouvement se produit près du bord de l'écran
 - Si un changement global se produit sur l'écran de manière continue, aléatoirement, à cause de facteurs tels que les changements de scène et les changements d'éclairage soudains
 - Si un objet en mouvement s'approche trop près de la caméra
 - Lorsqu'un objet cache un autre objet
 - Lorsque le mouvement d'un objet est trop rapide
 - Lorsqu'une lumière vive, telle que la lumière directe du soleil, un éclairage fort ou les phares d'un véhicule, crée des reflets, flou ou des ombres
 - En cas de forte neige, de pluie abondante ou de vents violents, ou de coucher ou lever de soleil.

Zone d'inclusion

La zone désignée par l'utilisateur est définie comme la zone de détection de mouvement.

Définir une zone

Lorsque vous sélectionnez 4 coins d'une image avec la souris, cela est défini comme la zone de détection de mouvement et la couleur des boutons numériques change dans [Zone]. Il est possible de régler jusqu'à 8 zones et le niveau et la sensibilité peuvent être réglés séparément pour chaque zone de détection de mouvement.

Modifier une zone

Vous pouvez modifier la taille d'une zone de détection de mouvement en déplaçant un coin de la zone de détection de mouvement. Pour déplacer une zone de détection de mouvement, cliquez sur la zone correspondante avec la souris et faites-la glisser.

Supprimer une zone

Pour supprimer une zone de détection de mouvement, cliquez sur le bouton droit de la souris dans la zone de l'écran correspondante et cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression.

Zone

Lorsqu'une zone de détection de mouvement est ajoutée, la couleur des boutons numériques change dans [Zone]. Lorsque vous cliquez sur le bouton numérique, la zone correspondante disparaît de l'écran d'aperçu. Lorsque vous cliquez à nouveau sur le bouton numérique, la zone de détection de mouvement réapparaît.

Niveau de détection

Ceci définit le niveau standard de détection de mouvement. Vous pouvez établir le niveau de chaque zone de détection de mouvement dans [Zone], et lorsqu'un mouvement dépasse le niveau défini, un événement de détection de mouvement est créé.

De plus, alors qu'un mouvement est détecté dans chaque zone, un graphique de mouvement apparaît, et lorsqu'un événement de mouvement est créé, la couleur du graphique change.

Durée minimum

Durée(s) minimum : Définit le temps minimum pour déclencher un événement après la détection. Lorsque le mouvement dure plus longtemps que la période définie, l'événement est déclenché.

Sensibilité

Cette fonction définit la sensibilité de la détection de mouvement pour chaque zone. Établissez une sensibilité plus faible pour un environnement où l'arrière-plan et un objet sont clairement visibles et une sensibilité plus élevée pour un environnement où l'arrière-plan et un objet ne sont pas clairement visibles.

Exclure la zone

La zone désignée par l'utilisateur est définie comme zone exclue.

Définir une zone exclue

Lorsque vous sélectionnez 4 coins d'une image avec la souris, cela est défini comme zone exclue et la couleur des boutons numériques change dans [Zone]. Il est possible de définir jusqu'à 8 zones exclues.

Modifier une zone exclue

Vous pouvez modifier la taille d'une zone exclue en déplaçant un coin de la zone exclue. Pour déplacer une zone exclue, cliquez sur la zone correspondante avec la souris et faites-la glisser.

Supprimer une zone exclue

Pour supprimer une zone exclue, cliquez sur le bouton droit de la souris dans la zone de l'écran correspondante et cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression.

Zone

Lorsqu'une zone exclue est ajoutée, la couleur des boutons numériques change dans [Zone]. Lorsque vous cliquez sur le bouton numérique, la zone exclue correspondante disparaîtra de l'écran d'aperçu. Lorsque vous cliquez à nouveau sur le bouton numérique, la zone exclue réapparaîtra.

Commun

Règle les tailles minimale et maximale d'un objet à détecter.

Taille

Cliquez sur le coin inférieur droit et faites glisser la souris pour modifier la taille. Si vous modifiez la taille, vous modifiez également les valeurs [Minimum] et [Maximum] de l'option [Taille].

Remarque

- Si les zones d'intérêt et exclues sont identiques ou se chevauchent, la zone exclue a priorité sur l'autre.
- Tout mouvement inférieur à la taille minimale spécifiée ou supérieur à la taille maximale spécifiée ne sera pas détecté. Veuillez déterminer les meilleures valeurs pour les tailles de détection minimales/maximales appropriées à l'environnement d'installation, afin d'éviter toute détection erronée résultant de petits et/ou grands bruits. Rappelez-vous que le même mouvement au même endroit n'entraîne pas toujours la même taille de détection. Par conséquent, il est recommandé de laisser suffisamment de petits/grands espaces pour vos limites de taille minimum/maximum en tenant compte de l'écart dans les tailles détectées.

Transfert

Transfert

Sélectionnez un numéro de caméra récepteur de relais. Sélectionnez [Désactiver] si vous ne souhaitez pas utiliser la fonction de relais.

Le relais est une fonction permettant à la caméra récepteur de passer à la position PTZ prédéfinie lorsqu'un événement de classification de sources audio se produit. La caméra recevant le relais peut être définie dans le menu [Événement]> [Transfert].

Remarque

- Vous pouvez définir la caméra récepteur de relais pour chaque zone d'intérêt. La fonction de relais peut être utilisée après avoir d'abord défini la zone d'intérêt.

Transparence

Cliquez sur [Activer] pour superposer la zone détectée sur l'écran vidéo.

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir le numéro d'émission d'alerte pour une alarme précise lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Ceci définit la configuration des actions de [Config. action évén.] pour qu'elles fonctionnent toujours, ou seulement à une heure définie lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement définie est toujours exécutée lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement est exécutée lorsqu'un événement de détection de mouvement est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Détection de sabotage

Un événement de détection de sabotage peut être créé lorsque l'écran est bloqué ou que la position de la caméra est modifiée. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Le réglage de l'événement de détection de sabotage s'applique à [Détection de sabotage] dans les pages [Événement]> [Configuration de l'événement] de manière égale.

Détection de sabotage

Activer la détection de sabotage

Pour utiliser l'événement de détection de sabotage, sélectionnez [Activer la détection de sabotage].

Niveau de détection

Ceci définit le niveau standard de détection de sabotage. Un événement de détection de sabotage est créé lorsqu'un sabotage du niveau défini est détecté.

En outre, lorsqu'un sabotage est détecté, un graphique montrant le niveau d'altération apparaîtra, et lorsqu'un événement de détection de sabotage est créé, la couleur du graphique changera.

Sensibilité

Une sensibilité plus élevée entraîne une réponse plus sensible du schéma de niveau de détection.

Durée(s) minimum

Ceci définit le temps minimum pour détecter un sabotage et créer un événement. Un événement de détection de sabotage est créé uniquement lorsque le sabotage persiste pendant la durée minimale.

Sauf l'obscurité

Pour exclure une diminution soudaine de la luminosité sur l'écran, comme une baisse soudaine de la lumière détectée par l'événement de détection de sabotage, sélectionnez [Activer].

Remarque

- La performance de détection peut se détériorer sur un fond uniforme ou dans un environnement de faible luminosité nocturne.
- Si la caméra bouge trop ou si la lumière change soudainement, la détection de sabotage peut ne pas fonctionner correctement.
- Cela peut prendre jusqu'à 5 secondes pour qu'un événement de détection de sabotage soit créé après un sabotage.
- Lorsqu'un sabotage de la caméra est détecté, la fonction redémarre après une stabilisation d'environ 5 secondes et aucun sabotage ne sera détecté pendant ce processus de stabilisation.

- Lorsqu'un événement incorrect est créé de manière répétée, les erreurs peuvent être minimisées en diminuant progressivement le niveau.
- Si vous réglez le niveau de détection trop bas, il est alors possible de déclencher une sortie alarme en cas de changements mineurs sur l'écran, mais cela peut également entraîner une fausse détection causée par des objets en mouvement ou un changement de luminosité.

Transfert

Transfert

Sélectionnez un numéro de caméra récepteur de relais. Sélectionnez [Désactiver] si vous ne souhaitez pas utiliser la fonction de relais.

Le relais est une fonction permettant à la caméra récepteur de passer à la position PTZ prédéfinie lorsqu'un événement de classification de sources audio se produit. La caméra recevant le relais peut être définie dans le menu [Événement]> [Transfert].

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de détection de sabotage est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement de détection de sabotage est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de détection de sabotage est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir le numéro d'émission d'alerte pour une alarme spécifique lorsqu'un événement de détection de sabotage est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Ceci définit l'action de l'évènement depuis la [\[Config. action évén.\]](#) pour qu'elle fonctionne en permanence ou seulement à l'heure définie lorsqu'un évènement de détection de sabotage est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'évènement est toujours exécutée lorsqu'un évènement de détection de sabotage est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'évènement est uniquement exécutée lorsqu'un évènement de détection de sabotage est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [\[Heure programmée uniquement\]](#) est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'évènement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'évènement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés. Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [\[1 min\]](#), [\[30 min\]](#) ou [\[1 h\]](#). Lorsque vous cliquez sur le bouton [\[Réinitialiser\]](#), toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [\[Général\]>\[Date et heure\]](#).

Defocus détection

Un événement de détection d'effets de flou peut être créé lorsque l'effet de flou de l'objectif de la caméra est détecté. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration de l'événement de détection d'effets de flou s'applique à la [Defocus Détection] sur [Événement]>[\[Configuration de l'événement\]](#) de la même manière.

Defocus détection

Activer Defocus détection

Pour utiliser l'événement de détection d'effets de flou, sélectionnez [Activer Defocus détection].

Niveau de détection

Ceci définit le niveau standard de détection d'effets de flou. Un événement de détection d'effets de flou est créé lorsque des effets de flou supérieurs au niveau défini sont détectés.

Lorsque les effets de flou sont détectés, un schéma montrant le niveau de flou apparaît, et lorsqu'un événement d'effets de flou est créé, la couleur du schéma change.

Sensibilité

La sensibilité est élevée, plus le graphique de niveau est élevé pour la même image.

Durée(s) minimum

Ceci définit la durée minimum d'effets de flou pour qu'un événement soit créé. Un événement de détection d'effets de flou est créé uniquement lorsque l'effet de flou persiste pendant une durée minimum.

Remarque

- Afin de recevoir une alarme indiquant la détection des effets de flou après qu'elle se fut produite, l'état doit redevenir stable au moins une fois. Les cas de retour à un état stable sont les suivants.
 - Lorsque l'option [Activer Defocus détection] est désélectionnée.
 - Lorsque la mise au point simple opère afin qu'une image puisse être visible
 - Lorsqu'un objet dans l'image se déplace vers une position de mise au point de sorte qu'il puisse être distingué
- Dans n'importe lequel des cas suivants, les performances de détection d'effets de flou peuvent se détériorer ou un dysfonctionnement peut survenir.
 - Contrôler un environnement avec un arrière-plan monotone, de nuit, et/ou dans un milieu peu éclairé
 - Changement d'éclairage soudain (par exemple, une lumière intérieure est éteinte)
 - Objectif bloqué ou apparition d'un gros objet qui couvre la plupart de l'écran
 - L'objet de la mise au point est modifié en raison d'un changement de position de la caméra

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir le numéro d'émission d'alerte pour une alarme précise lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Mise au point simple

Une mise au point simple est exécutée afin d'ajuster automatiquement la mise au point lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé. La mise au point simple n'est exécutée qu'une seule fois lorsqu'un événement est créé.

Temps d'activation d'évènement

Cela définit la configuration des actions de l'évènement dans [Config. action évén.] afin qu'elle fonctionne toujours, ou uniquement à l'heure définie, pour laquelle un événement de détection d'effets de flou est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'évènement définie est toujours exécutée lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement définie est exécutée lorsqu'un événement de détection d'effets de flou est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés. Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Détection de brouillard

Vous pouvez corriger l'image en créant un événement de détection de brouillard et en exécutant le désembuage par temps brumeux, lorsqu'il est difficile de discerner l'image. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration des événements de détection de brouillard s'applique également à [Détection de brouillard] aux pages [Événement]>[[Configuration de l'événement](#)] de la même manière.

Détection de brouillard

Activer la détection de brouillard

Pour utiliser la détection de brouillard, sélectionnez [Activer la détection de brouillard].

Niveau de détection

Le niveau de brouillard actuel apparaîtra dans le graphique de niveau. Une alarme se déclenche lorsque le niveau actuel est supérieur au niveau de détection défini. Un niveau de détection plus faible permet de détecter une image même si ses moindres détails sont flous à cause du brouillard.

Sensibilité

La sensibilité est élevée, plus le graphique de niveau est élevé pour la même image.

Durée(s) minimum

Cette option définit le délai minimum entre la détection du brouillard et la création d'un événement. Une alarme se déclenche lorsque l'état du niveau dépassant le niveau de détection persiste pendant la durée minimum définie.

Remarque

- Afin de recevoir une alerte indiquant une détection de brouillard après qu'elle se fut précédemment produite, l'état doit revenir à un état stable au moins une fois. L'amélioration de l'image suite à l'opération de désembuage n'est pas reconnue comme un état stable. Les cas de retour à un état stable sont les suivants.
 - Lorsque [Activer la détection du brouillard] est désélectionné
 - Lorsque le brouillard ou la fumée a disparu au point qu'il est possible de distinguer une image
- Dans tous les cas suivants, les performances de détection de brouillard peuvent se détériorer ou un dysfonctionnement peut survenir.
 - Contrôler un environnement avec un arrière-plan monotone, de nuit, et/ou dans un milieu peu éclairé
 - Changement d'éclairage soudain (par exemple, une lumière intérieure est éteinte)
 - Objectif bloqué ou apparition d'un gros objet qui couvre la plupart de l'écran
 - L'objet de la mise au point est modifié en raison d'un changement de position de la caméra

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir un numéro d'émission d'alerte pour une alarme précise lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Désembuage

Pour exécuter le désembuage lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé, sélectionnez [Activer].

Temps d'activation d'évènement

Ceci définit la configuration des actions de l'événement de [Config. action évén.] pour qu'elle fonctionne toujours, ou seulement à une heure définie lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement définie est toujours exécutée lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement définie est exécutée lorsqu'un événement de détection de brouillard est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier

visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Détection de visage

Un événement de détection de visage peut être créé lorsqu'un visage est détecté dans la zone désignée par l'utilisateur pendant que la caméra capture une image. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration des événements de détection de visage s'applique à la [Détection de visage] sur [Événement]>[[Configuration de l'événement](#)] de la même manière.

Détection de visage

Activer la détection faciale

Pour utiliser l'événement de détection de visage, sélectionnez [Activer la détection faciale].

Zone

Définir une zone

Parmi l'ensemble de l'écran, une zone sélectionnée par l'utilisateur peut être définie en tant que zone. La taille minimale de détection des visages est affichée sous la forme d'une icône de visage dans la zone de détection. En d'autres termes, tout visage plus grand que le icône dans la zone d'intérêt est détecté.

Modifier une zone

Vous pouvez modifier la taille de la zone de détection en cliquant sur le coin inférieur droit de la zone définie et en faisant glisser la zone correspondante à l'aide de la souris.

Sensibilité

Cette option définit la sensibilité de l'événement de détection de visage. Plus la sensibilité est élevée, plus la détection de visage est détaillée.

Déplacement de la zone d'intérêt basé sur le mouvement

Sélectionnez [Activer] si vous souhaitez que la zone de détection de visage soit automatiquement modifiée en fonction de l'analyse de mouvement. Si [Activer] n'est pas sélectionné, les visages ne seront détectés que dans la zone d'intérêt définie. Si la zone d'intérêt est définie, le visage ne sera détecté que dans la zone définie et l'efficacité de détection de petits visages à une longue distance risque d'être détériorée. Si la fonction « Déplacement de la zone d'intérêt basé sur le mouvement » est utilisée lorsqu'un mouvement est détecté sur tout l'écran, la zone de détection du visage est automatiquement modifiée, ce qui améliore l'efficacité de la détection des visages.

Remarque

- Lorsque la fonction de déplacement de la zone d'intérêt basé sur le mouvement est utilisée, seule la zone où le mouvement se produit est désignée comme zone de détection de visage.
- La détection de visage en continu est impossible car la zone de détection est activement modifiée afin de détecter les visages dans différentes zones.

Zone exclue

Définir une zone exclue

Parmi l'ensemble de l'écran, une zone sélectionnée par l'utilisateur peut être définie comme zone exclue. Lorsque vous sélectionnez 4 coins de l'image avec la souris, la zone est définie comme zone d'exclusion et la couleur des boutons numériques change dans [Zone]. Il est possible de définir jusqu'à 8 zones exclues.

Modifier une zone exclue

Vous pouvez modifier la taille de la zone exclue en cliquant sur le coin de la zone d'exclusion actuelle et en faisant glisser la zone correspondante à l'aide de la souris.

Supprimer une zone exclue

Pour supprimer une zone exclue, cliquez sur le bouton droit de la souris dans la zone de l'écran correspondante et cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression.

Zone

Lorsqu'une zone exclue est ajoutée, la couleur du bouton numérique change également. Lorsque vous cliquez sur le bouton numérique, la zone exclue correspondante disparaîtra de l'écran d'aperçu. Lorsque vous cliquez à nouveau sur le bouton numérique, la zone exclue réapparaîtra.

Remarque

- Si la zone de détection et la zone exclue sont identiques ou se superposent, la zone exclue est prioritaire.

Transparence

Cliquez sur [Activer] pour superposer la zone détectée sur l'écran vidéo.

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de détection de visage est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement de détection de visage est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de détection de visage est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir un numéro d'émission d'alerte pour une alarme précise lorsqu'un événement de détection de visage est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Définit le temps de fonctionnement de la configuration des actions de l'événement de détection de visage. Définit la configuration des actions de l'événement dans [Config. action évén.] afin qu'elle fonctionne constamment, ou uniquement à l'heure définie.

Toujours

La configuration des actions de l'événement définies est toujours exécutée lorsqu'un événement de détection de visage est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement définie est exécutée lorsqu'un événement de détection de visage est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

IVA

Un événement IVA peut être créé lorsque la règle de l'analytique de vidéo est définie et qu'un mouvement qui remplit les conditions d'événement est détecté. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration de l'événement IVA s'applique à [IVA] aux pages [Événement]>[Configuration de l'événement] de la même manière.

IVA (analyse vidéo intelligente (Intelligent Video Analytics))

Activer IVA

Pour utiliser l'événement IVA, sélectionnez [Activer IVA].

Ligne virtuelle

Le mouvement d'un objet est détecté en fonction de la ligne virtuelle et des instructions définies par l'utilisateur.

Définir une ligne virtuelle

Lorsque vous cliquez sur le point de départ et le point d'arrivée de la ligne, à chaque position souhaitée, sur l'écran d'image de la caméra, la ligne virtuelle sera définie et la couleur du bouton numérique dans [Ligne] change. Vous pouvez modifier la direction de A à B, de B à A, ou les deux directions, en cliquant sur la flèche au milieu de la ligne virtuelle, ou vous pouvez sélectionner une direction souhaitée parmi [Direction] dans [Catégories]. Il est possible de définir jusqu'à 8 lignes virtuelles.

Modifier une ligne virtuelle

Vous pouvez modifier la taille de la ligne virtuelle en déplaçant un coin de la ligne virtuelle définie. Vous pouvez modifier la position de la ligne virtuelle en cliquant et en faisant glisser la ligne virtuelle avec la souris.

Effacer une ligne virtuelle

Pour effacer une ligne virtuelle, cliquez sur le bouton droit de la souris dans la zone correspondante de l'écran et cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression.

Ligne

Lorsqu'une ligne virtuelle est ajoutée, la couleur des boutons numériques dans [Ligne] change. Lorsque vous désactivez une ligne virtuelle en cliquant sur les boutons numériques, la ligne virtuelle correspondante ne s'affiche pas sur l'écran d'aperçu. Lorsque vous cliquez à nouveau sur les boutons numériques, la ligne virtuelle réapparaît.

Catégories

- Passage : cochez la case pour créer un événement lorsqu'un objet qui passe la ligne virtuelle établie est détecté.

Zone virtuelle

- Instructions : définit les instructions pour qu'un objet passe la ligne virtuelle.

L'utilisateur établit la zone virtuelle et applique la règle d'intrusion de l'image, entrée/sortie, apparition (disparition) et flânerie dans la zone concernée afin de détecter le mouvement d'un objet.

Définir une zone virtuelle

Sur l'écran Aperçu, utilisez votre souris pour sélectionner 4 coins ou faites glisser pour dessiner une forme quadrilatérale qui sera alors votre zone d'intérêt. Il est possible de définir jusqu'à 8 zones virtuelles et une règle d'analyse d'image pour chaque zone.

Modifier une zone virtuelle

Vous pouvez modifier la taille de la zone virtuelle en déplaçant un coin de la zone virtuelle définie.

Pour créer un polygone (N-gon), sélectionnez d'abord et créez un quadrilatère. Lorsqu'un signe + apparaît, cliquez dessus pour ajouter un autre point. Vous pouvez ajouter jusqu'à 4 points supplémentaires pour créer un polygone de votre choix.

Pour déplacer la zone virtuelle définie, cliquez et faites glisser la zone correspondante avec la souris. Lorsqu'un coin est créé après avoir cliqué sur une ligne, vous pouvez définir une zone virtuelle polygonale en déplaçant le coin.

Effacer une zone virtuelle

Pour effacer une zone virtuelle, cliquez sur le bouton droit de la souris dans la zone correspondante de l'écran et cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression.

Zone

Lorsqu'une zone virtuelle est ajoutée, la couleur des boutons numériques change dans [Zone]. Lorsque vous désactivez une zone virtuelle en cliquant sur les boutons numériques, la zone virtuelle correspondante ne s'affiche pas sur l'écran d'aperçu. Lorsque vous cliquez à nouveau sur les boutons numériques, la zone virtuelle réapparaît.

Catégories

Vous pouvez définir la règle à appliquer pour chaque zone virtuelle.

- Intrusion : lorsqu'un objet se déplacera dans la zone définie, un événement sera créé.
 - Durée(s) minimum : Définit le temps minimum pour déclencher un événement après la détection. Lorsque le mouvement dure plus longtemps que la période définie, l'événement est déclenché.
- Entrer : lorsqu'un objet entrera dans la zone définie par l'utilisateur, un événement sera créé.
- Sortie : lorsqu'un objet en mouvement sortira de la zone définie par l'utilisateur, un événement sera créé.
- Apparition (Disparition) : lorsqu'un objet qui n'existe pas dans la zone désignée par l'utilisateur apparaît à l'intérieur de la zone sans passer la ligne de la zone et reste pendant un certain temps, ou si un objet existant dans la zone disparaît, un événement sera créé.
 - Durée(s) minimum : définit le délai minimum pour qu'un objet soit détecté comme étant en train d'apparaître (disparaître). Lorsqu'un objet qui existe dans la zone de détection à l'heure réglée disparaît, il est détecté comme étant en train de

disparaître et lorsqu'un objet qui n'existe pas apparaît pendant la durée définie, il est détecté comme en train d'apparaître.

- Flânerie : Lorsqu'un objet flânant dans la zone de détection est détecté, un événement est créé.
 - Durée(s) minimum : Ceci définit la durée minimale de détection d'un objet flânant et de création d'un événement. Lorsqu'un objet qui flâne plus longtemps que le temps défini est détecté, un événement est créé.

Remarque

- Lorsque la détection de flânerie est utilisée avec d'autres dispositifs de détection d'événement IVA, les performances peuvent se détériorer jusqu'à un certain degré en comparaison avec une utilisation séparée de la détection de flânerie.

Zone exclue

Cette option définit la zone exclue où les mouvements ne seront pas détectés lorsque la règle d'analyse est appliquée à la ligne virtuelle et à la zone virtuelle.

Définir une zone exclue

Sur l'écran Aperçu, utilisez votre souris pour sélectionner 4 coins ou faites glisser pour dessiner une forme quadrilatérale qui sera alors votre zone exclue. Il est possible de définir jusqu'à 8 zones exclues.

Modifier une zone exclue

Vous pouvez modifier la taille d'une zone exclue en déplaçant un coin de la zone exclue. Pour créer un polygone (N-gon), sélectionnez d'abord et créez un quadrilatère. Lorsqu'un signe + apparaît, cliquez dessus pour ajouter un autre point. Vous pouvez ajouter jusqu'à 4 points supplémentaires pour créer un polygone de votre choix. vous pouvez changer la position d'une zone exclue en la sélectionnant et en la faisant glisser avec la souris.

Supprimer une zone exclue

Pour supprimer une zone exclue, cliquez sur le bouton droit de la souris dans la zone de l'écran correspondante et cliquez sur le bouton [OK] dans la fenêtre confirmer la suppression.

Zone

Lors de l'ajout d'une zone exclue, la couleur des boutons numérotés dans la [Zone] changent. Si vous cliquez sur les boutons de numérotation pour les désactiver, la zone exclue est alors sélectionnée sur l'écran Aperçu

Commun

Cette option définit la sensibilité et la taille minimum et maximum d'un objet à détecter qui sera appliquée à la fois à la ligne virtuelle et à la zone virtuelle.

Il s'agit d'un réglage que vous pouvez appliquer pour augmenter la précision de détection et minimiser l'apparition de fausses détections en fonction de votre environnement.

Sensibilité

Cette option définit la sensibilité de la détection de mouvement pour la ligne virtuelle et la zone virtuelle. Établissez une sensibilité plus faible pour un environnement où l'arrière-plan et un objet sont clairement visibles et une sensibilité plus élevée pour un environnement où l'arrière-plan et un objet ne sont pas clairement visibles.

Taille

Cette option définit la taille minimum et maximum d'un objet à détecter qui sera appliquée à la fois à la ligne virtuelle et à la zone virtuelle. Vous pouvez modifier la taille en cliquant sur un coin avec la souris et en le faisant glisser. Lorsque la taille est modifiée, le [Minimum] et le [Maximum] dans [Taille] changent également.

Remarque

- Si la zone de détection et la zone exclue sont identiques ou se superposent, la zone exclue est prioritaire.
- Tout mouvement inférieur à la taille minimale spécifiée ou supérieur à la taille maximale spécifiée ne sera pas détecté. Veuillez déterminer les meilleures valeurs pour les tailles de détection minimales/maximales appropriées à l'environnement d'installation, afin d'éviter toute détection erronée résultant de petits et/ou grands bruits. Rappelez-vous que le même mouvement au même endroit n'entraîne pas toujours la même taille de détection. Par conséquent, il est recommandé de laisser suffisamment de petits/grands espaces pour vos limites de taille minimum/maximum en tenant compte de l'écart dans les tailles détectées.

Transfert

Transfert

Sélectionnez un numéro de caméra récepteur de relais. Sélectionnez [Désactiver] si vous ne souhaitez pas utiliser la fonction de relais.

Le relais est une fonction permettant à la caméra récepteur de passer à la position PTZ prédéfinie lorsqu'un événement de classification de sources audio se produit. La caméra recevant le relais peut être définie dans le menu [Événement]> [Transfert].

Remarque

- Vous pouvez définir la caméra récepteur de relais pour chaque ligne virtuelle et zone d'intérêt. Vous pouvez utiliser la fonction de relais après avoir en premier défini la ligne virtuelle ou la zone d'intérêt.

Transparence

Cliquez sur [Activer] pour superposer la zone détectée sur l'écran vidéo.

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement IVA est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement IVA se produit, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement IVA est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir le numéro d'émission d'alerte pour une alarme précise lorsqu'un événement IVA est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte]. En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Cela définit le temps de fonctionnement de la configurations des actions de l'événement IVA. Définit la configuration des actions de l'événement dans [Config. action évén.] afin qu'elle fonctionne constamment, ou uniquement à l'heure définie.

Toujours

La configuration des actions de l'événement est toujours exécutée lorsqu'un événement IVA est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement est exécutée lorsqu'un événement IVA est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Détection audio

Un événement de détection audio peut être créé lorsqu'un audio supérieur à un niveau défini est détecté pendant que la caméra capture une image. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. La configuration de l'événement de détection audio s'applique à [Détection audio] sur les pages [Événement] et [Configuration de l'événement] de la même manière.

Détection audio

Activer la détection audio

Pour appliquer l'événement de détection audio, sélectionnez [Activer la détection audio].

Niveau de détection

Ceci définit la norme de niveau pour la détection audio. Un événement de détection audio est créé lorsqu'un audio supérieur au niveau défini est détecté.

Lorsque l'audio est détecté, un schéma apparaît, et lorsqu'un événement de détection audio est créé, la couleur du schéma change.

Remarque

- Le gain audio peut être réglé depuis [Vidéo et audio]>[Configuration audio]>[Gain].
- Plus le niveau de détection est bas, plus la variation du son qu'il peut détecter est faible.
- Le niveau de détection audio est conçu pour détecter un son au niveau du seuil ou à un niveau supérieur en normalisant les données d'entrée à une valeur comprise entre 1 et 100, et il n'est pas pertinent pour les valeurs en décibels (dB).
- Accédez à [Video & Audio]>[Audio configuration]>[Source] pour sélectionner le microphone et régler le niveau approprié de son afin que la fonction de détection audio puisse fonctionner correctement.

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de détection audio se produit, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par e-mail lorsqu'un événement de détection audio est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de détection audio est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[Stockage].

Émission d'alerte

Il est possible de définir un numéro d'émission d'alerte pour une alarme précise lorsqu'un événement de détection audio est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[Émission d'alerte].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Ceci définit la configuration des actions de l'événement de [Config. action évén.] pour qu'elle fonctionne constamment, ou uniquement à une heure définie, lorsqu'un événement de détection audio est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement définie est toujours exécutée lorsqu'un événement de détection audio est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement définies est exécutée lorsqu'un événement de détection audio se produit pendant le temps défini. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés.

Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Classification sonore

Le type de son détecté pendant que la caméra capture une image peut être classé et créé en tant qu'événement de classification sonore. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page. Le paramètre de l'événement de classification sonore s'applique à [Classification sonore] sur les pages [Événement]> [Configuration de l'événement] de manière égale.

Classification sonore

Activer la classification sonore

Pour utiliser l'événement de classification sonore, sélectionnez [Activer la classification sonore].

Configuration

Filtre sonore

Pour utiliser le filtre d'élimination du bruit, sélectionnez [Activer]. Si le bruit environnant est supérieur à 55 dB ~ 65 dB, utilisez le [Filtre sonore]. L'utilisation de la fonction de réduction du bruit selon des environnements réduit le son d'origine de sorte que la performance de classification du son risque de se détériorer ou un dysfonctionnement pourrait se produire. Si le filtre de réduction de bruit est utilisé dans un environnement silencieux, la performance de classification sonore peut se détériorer.

Niveau de classification

Définit le niveau d'énergie audio pour classer le son. La valeur de niveau de l'énergie audio d'entrée est mesurée sur la zone et renouvelée périodiquement de droite à gauche. La classification sonore s'applique uniquement à l'audio au-dessus du niveau défini. En d'autres termes, une source sonore est classée uniquement lorsque l'énergie de l'entrée audio est supérieure à la ligne de référence. Si la ligne de référence est abaissée, il y a davantage de données cibles qui entrent dans la classification sonore et cela augmente le nombre de possibilités de fausses détections. Si la ligne de référence est rehaussée, il y a moins de données cibles qui entrent dans la classification sonore et le nombre de détections manquantes est susceptible d'augmenter. Réglez correctement la ligne de référence en fonction du niveau de bruit environnant.

Catégories

Cela détecte le type de son et crée un événement. Le type de son à détecter peut être sélectionné plusieurs fois.

- Son de cri : Détecte un son fort et soudain, y compris le cri d'une personne tel qu'un homme, femme ou enfant, et crée un événement.
- Son de coup de feu : Détecte un coup de feu ne se produisant qu'une fois et crée un événement.
- Son d'explosion : Détecte une explosion et crée un événement.
- Son de verre brisé : Détecte le bruit de verre brisé et crée un événement.

Remarque

- Si [Ligne] est réglé sur [Source] dans [Vidéo et audio]>[Configuration audio]>[Entrée audio], la fonction de classification sonore ne fonctionne pas.
- Il est recommandé de définir un nombre compris entre 4 et 6 pour [Gain] dans [Vidéo et audio]>[Configuration audio]>[Entrée audio].
- Si le [Microphone externe] est réglé sur [Source] dans [Vidéo et audio]>[Configuration audio]>[Entrée audio], les spécifications recommandées du microphone sont les suivantes. Si le microphone n'est pas conforme aux spécifications, la fonction de classification du son peut ne pas fonctionner correctement.
 - Gamme de fréquences : 40 ~ 16 000 Hz
 - Impédance : 1 500 Ω
 - Sensibilité : -40 ± 3 dB (7,1 ~ 14,1 mV)
- Dans tous les cas suivants, les performances de classification sonore peuvent se détériorer ou un dysfonctionnement se produire.
 - Lorsque des coups de feu répétés se produisent, comme un bruit de mitrailleuse, un seul coup de feu est inclus dans la catégorie pour le coup de feu
 - Lorsque le son est trop long, de sorte que le bruit et le son de la cible ne peuvent être distingués
 - Lorsque deux ou plusieurs sons différents sont entrés en même temps
 - Lorsque l'objet de la mise au point a changé en raison du changement de position de la caméra
 - Si la fonction d'élimination du bruit est utilisée dans un endroit calme et que la classification sonore est appliquée
 - Si la source de sons de claquement de mains ou de cris est proche de la caméra (à moins de 1 mètre)
 - Si un son qui n'appartient pas aux catégories de classification des sons, comme un son d'avion ou de sirène, retentit fort soudainement

Transfert

Transfert

Sélectionnez un numéro de caméra récepteur de relais. Sélectionnez [Désactiver] si vous ne souhaitez pas utiliser la fonction de relais.

Le relais est une fonction permettant à la caméra récepteur de passer à la position PTZ prédéfinie lorsqu'un événement de classification de sources audio se produit. La caméra recevant le relais peut être définie dans le menu [Événement]> [Transfert].

Config. action évén.

FTP

Pour enregistrer une image sur un serveur FTP lorsqu'un événement de classification sonore est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le FTP peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

E-mail

Pour envoyer une image par email lorsqu'un événement de classement sonore est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour l'e-mail peuvent être effectués depuis [Événement]>[FTP/E-mail].

Enregistrer

Pour enregistrer une image sur une carte SD ou un NAS lorsqu'un événement de classification sonore est créé, sélectionnez [Activer]. Les réglages détaillés pour le stockage peuvent être effectués depuis [Événement]>[[Stockage](#)].

Émission d'alerte

Il est possible de définir le numéro d'émission d'alerte pour une alarme spécifique lorsqu'un événement de classification sonore est créé. Après avoir sélectionné un numéro d'émission d'alerte, sélectionnez [Désactivé] si vous ne souhaitez pas d'alerte, ou sélectionnez l'heure d'émission si vous souhaitez émettre une alarme. Vous pouvez définir une alarme continue jusqu'à ce qu'elle soit désactivée par l'utilisateur en sélectionnant [Toujours], ou régler l'alarme pour 5, 10 ou 15 secondes. Les réglages détaillés pour l'émission d'alerte peuvent être effectués depuis [Événement]>[[Émission d'alerte](#)].

En fonction du nombre d'émissions d'alerte prises en charge par votre caméra, l'affichage de l'option d'émission d'alerte variera. Par exemple, s'il y a 2 émissions d'alerte, l'option affichera « émission d'alerte 1 » et « émission d'alerte 2 ».

Temps d'activation d'évènement

Ceci définit les réglages de la [[Config. action évén.](#)] pour qu'ils fonctionnent en permanence, ou uniquement dans la plage horaire définie lorsqu'un événement de classification sonore est créé.

Toujours

La configuration des actions de l'événement définis est toujours exécutés lorsqu'un événement de classification sonore est créé.

Heure programmée uniquement

La configuration des actions de l'événement définie n'est exécutée que lorsqu'un événement de classification sonore est créé pendant l'heure définie. La date, allant du dimanche au samedi en fonction de l'horaire actuel de la caméra, est affichée sur le calendrier visible lorsque l'option [Heure programmée uniquement] est sélectionnée. Vous pouvez définir l'heure de configuration des actions de l'événement en cliquant ou en faisant glisser la souris sur le calendrier. L'heure d'activation de l'événement définie est réalisée plusieurs fois le jour de la semaine et à l'heure concernés. Vous pouvez changer l'unité d'affichage de l'heure en cliquant sur les boutons [1 min], [30 min] ou [1 h]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], toutes les heures d'activation des événements définies seront supprimées. Pour confirmer ou modifier l'heure de la caméra, reportez-vous à la section [Général]>[Date et heure].

Informations produit

Vérifiez le nom du modèle et le numéro de série du produit et définissez le nom, l'emplacement, la description et la langue de l'appareil. Lorsque vous avez complété le réglage, cliquez sur le bouton [Appliquer] en bas de la page.

Informations produit

Modèle

Le nom du modèle du produit que vous utilisez actuellement est affiché. Les modifications ne peuvent pas être apportées au nom du modèle.

Numéro de série

Le numéro de série du produit que vous utilisez actuellement est affiché. Les modifications ne peuvent pas être apportées au numéro de série.

Nom de l'appareil

Saisissez le nom de l'appareil que vous utilisez actuellement. Si vous avez installé un certain nombre de caméras, un nom d'appareil différent est recommandé pour chaque caméra.

Emplacement

Saisissez l'emplacement d'installation du produit que vous utilisez actuellement. Si vous avez installé un certain nombre de caméras, un nom de lieu différent est recommandé pour les distinguer.

Description

Saisissez la description du produit que vous utilisez actuellement. Vous pouvez saisir d'autres informations nécessaires, notamment la date d'installation et l'emplacement où l'écran est affiché.

Note

Saisissez la description du produit que vous utilisez actuellement. Saisissez les autres informations nécessaires qui n'ont pas été saisies dans la section de description.

Langue

Sélectionnez la langue du produit que vous utilisez actuellement. Lorsque vous sélectionnez une langue et cliquez sur Appliquer, toutes les interfaces utilisateur seront modifiées dans la langue appropriée.

 **Remarque**

- Les caractères coréens ne peuvent pas être saisis - seules les majuscules et les minuscules anglaises, les chiffres et les caractères spéciaux peuvent être saisis.
 - Les caractères spéciaux qui peuvent être saisis sont les suivants : ~ ` ! @ \$ ^ () _ - | { } [] ; , . ? /
-

Mettre à niveau / Redémarrer

Vous pouvez mettre à niveau le logiciel du produit que vous utilisez actuellement, effectuer une configuration par défaut, sauvegarder, restaurer la configuration ou redémarrer.

Mise à niveau

Le logiciel peut être mis à jour lorsque de nouvelles versions de micrologiciel sont publiées.

Logiciel

La version du logiciel que vous utilisez est affichée. Les modifications ne peuvent pas être apportées à la version du logiciel.

Pour afficher les détails relatifs au logiciel, y compris la version ISP et la version SUNAPI, cliquez sur le bouton [Détails].

Logiciel Mise à niveau

Vous pouvez mettre à niveau le logiciel du produit que vous utilisez. Pour mettre à jour le logiciel, cliquez sur le bouton [...]. Sélectionnez un fichier de mise à niveau et cliquez sur le bouton [Ouvrir]. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Mise à niveau], la mise à niveau commence. Vous pouvez voir la progression de la mise à niveau en %. Lorsque la mise à niveau est terminée, la caméra redémarre et la connexion s'arrête automatiquement. Vous devrez vous reconnecter à l'écran Web.

Remarque

- Ne terminez pas le programme pendant la mise à niveau. Cela pourrait entraîner une mise à niveau incorrecte du programme.

Paramètres par défaut

Réinitialise la configuration du système à ce qu'elle était au moment de l'achat du produit. Lorsque vous cliquez sur le bouton [Réinitialiser], puis sur le bouton [OK] dans la fenêtre de confirmation, la réinitialisation des paramètres par défaut sera effectuée. (Les journaux ne seront toutefois pas réinitialisés.)

Si vous souhaitez réinitialiser la configuration du système (à l'exception de la configuration réseau et de la configuration de plate-forme ouverte installée) aux paramètres par défaut, sélectionnez [[Hormis les paramètres réseau et la plateforme ouverte]. Lorsqu'une réinitialisation aux paramètres par défaut est effectuée, la connexion avec la caméra est terminée. Lorsque vous vous reconnectez à l'écran Web pour la première fois, vous devrez saisir à nouveau le mot de passe.

Configuration sauvegarde et restauration

Vous pouvez sauvegarder et enregistrer la configuration actuelle de la caméra ou restaurer la configuration souhaitée. Vous pouvez créer un certain nombre de fichiers de sauvegarde pour des configurations souhaitées ou restaurer et utiliser la configuration souhaitée en fonction du but ou de l'environnement lors de l'utilisation du produit.

Sauvegarde

Lorsque vous cliquez sur le bouton [Sauvegarde], un fichier de sauvegarde « nom de modèle Config.bin » est créé.

Restauration

Lorsque vous cliquez sur le bouton [Restauration], une fenêtre dans laquelle vous pouvez sélectionner un fichier de sauvegarde à restaurer apparaît. Lorsque vous sélectionnez un fichier de sauvegarde et que vous appuyez sur le bouton [Ouvrir], la configuration est restaurée en fonction du fichier de sauvegarde correspondant.

Remarque

- Lorsque vous sauvegardez ou restaurez la configuration, la connexion avec la caméra s'arrête automatiquement et vous devez vous reconnecter à l'écran Web.
- Si vous utilisez un fichier de sauvegarde importé pour un modèle différent du produit que vous utilisez actuellement, le produit peut ne pas fonctionner correctement. N'utilisez pas un fichier de sauvegarde pour un modèle différent et ne modifiez pas la configuration manuellement.

Redémarrer

Redémarrez le système de caméra. Cliquez sur le bouton [Redémarrer] et lorsque la fenêtre de confirmation apparaît, cliquez sur le bouton [OK]. L'appareil photo redémarrera et la fenêtre de l'écran Web se fermera. Vous devrez vous reconnecter à l'écran Web.

Journal

Vous pouvez vérifier les journaux de la caméra. Vous pouvez vérifier les informations, notamment l'accès à la caméra, les changements du système et les événements qui se sont produits, ainsi que les informations du journal de sauvegarde pour chaque type de journal.

Remarque

Le nombre maximum de journaux pouvant être affichés sur une page est de 15.

Les journaux peuvent être vérifiés du journal le plus récent au plus ancien.

Jusqu'à 1 000 journaux peuvent être sauvegardés.

Lorsque le nombre de journaux enregistrés dépasse 1 000, un nouveau journal est enregistré après la suppression du journal le plus ancien.

Journal accès

Vous pouvez vérifier les informations de connexion et de déconnexion pour chaque accès au compte.

Type de journal

Vous pouvez vérifier les comptes ayant accédé à la caméra, les dates de connexion et de déconnexion, ainsi que les informations sur l'heure. Lorsque vous sélectionnez Tout, vous pouvez vérifier la connexion et la déconnexion, la date et l'heure et les informations détaillées de tous les identifiants d'accès.

Exporter

Vous pouvez sauvegarder le type de journal sélectionné sous forme de fichier texte. Pour sauvegarder le journal d'accès, cliquez sur le bouton [Exporter]. Les informations du fichier journal sont affichées sous la forme modèle de caméra nom_type de journal_date de sauvegarde, et heure.

Journal système

Vous pouvez vérifier la date et l'heure et des informations détaillées sur les modifications du système.

Type de journal

Cela vous permet de vérifier les informations de changement de configuration du système de la caméra, ainsi que la date et l'heure. Lorsque vous sélectionnez Tout, vous pouvez vérifier la date et l'heure ainsi que des informations détaillées de tous les changements du système.

Exporter

Vous pouvez sauvegarder le type de journal sélectionné sous forme de fichier texte. Pour sauvegarder le journal du système, cliquez sur le bouton [Exporter]. Les informations du fichier journal sont affichées sous la forme modèle de caméra nom_type de journal_date de sauvegarde, et heure.

Journal événements

Vous pouvez vérifier la date et l'heure ainsi que les informations détaillées relatives à un événement survenu dans le système.

Type de journal

Vous pouvez vérifier la date et l'heure de l'événement ainsi que les informations détaillées sur un événement sélectionné. Lorsque vous sélectionnez Tout, vous pouvez vérifier la date et l'heure ainsi que les informations détaillées sur tous les événements survenus dans le système.

Exporter

Vous pouvez sauvegarder le type de journal sélectionné sous forme de fichier texte. Pour sauvegarder le journal événements, cliquez sur le bouton [Exporter]. Les informations du fichier journal sont affichées sous la forme modèle de caméra nom_type de journal_date de sauvegarde, et heure.

Plate-forme ouverte

Lorsque vous installez une application supplémentaire sur la caméra, vous pouvez utiliser les fonctions de l'application installée en plus des fonctions existantes.

Plate-forme ouverte

Installation d'une plate-forme ouverte

1. Cliquez sur le bouton [...], sélectionnez une application, puis cliquez sur le bouton [Ouvrir].
2. Cliquez sur le bouton [Installer]. Une fois l'installation de l'application terminée, un message indiquant « Installé » s'affiche et les informations sur l'application installée s'affichent dans la liste.

No.

Un numéro est attribué dans l'ordre d'installation des applications.

Nom de l'application

Le nom de l'application, la date d'installation et la version sont affichés.

- Désinstaller : Supprime une application installée.
- Aller App : Passe à l'écran fourni par chaque application.

État

Affiche l'état de fonctionnement d'une application.

Lorsqu'une application est en cours de fonctionnement, « En cours de fonctionnement » s'affiche et lorsqu'une application est arrêtée, « Arrêtée » s'affiche.

- Démarrer : Exécute l'application installée.
- Arrêter : Arrête une application en cours d'exécution.
- Santé : Le taux d'utilisation des ressources, le compte de processus et le temps de fonctionnement des applications en cours de fonctionnement sont affichés. Cette option est activée uniquement lorsqu'au moins une application est en cours de fonctionnement.

Configuration

Définit la priorité d'exécution et le démarrage automatique des applications. Réglez selon vos préférences et cliquez sur le bouton [Appliquer].

- Priorité : Définit la priorité entre les applications en cours d'exécution. Si l'utilisation des ressources de l'ensemble de la caméra (y compris la tâche principale de la caméra et les applications) devient trop élevée, certaines applications en cours d'exécution seront fermées de force. Les applications définies comme étant de « faible priorité » par l'utilisateur sont fermées en premier.
- Démarrage automatique : Lorsque [Activer] est sélectionné, une application est exécutée automatiquement quand la caméra est allumée et la tâche principale est exécutée.

Gestionnaire de tâches

Le taux d'utilisation des ressources des applications en cours d'exécution dans la caméra est affiché.

- Nom de l'application : Le nom de l'application est affiché.
- Utilisation de la mémoire (%) : Le taux d'utilisation de la mémoire par chaque application est affiché.
- Utilisation du CPU (%) : Le taux d'utilisation du CPU de chaque application est affiché.
- Compte de processus : Le nombre de processus créés par chaque application est affiché.
- Durée : La durée totale de fonctionnement de chaque application est affichée.
- Action : L'état d'action de chaque application est affiché. Pour arrêter l'application, cliquez sur [Tuer la tâche].
- Utilisation totale : Le taux d'utilisation total des ressources (la tâche principale de la caméra et les applications incluses) actuellement utilisé dans la caméra est affiché.

Remarque

- Pour toute question concernant l'installation et l'utilisation des applications, contactez le site web des développeurs de Hanwha Techwin (https://step.hanwha-security.com/fra_FR/Default.aspx (https://step.hanwha-security.com/kor_EN/Default.aspx)).



Head Office

6, Pangyo-ro 319 beon-gil, Bundang-gu, Seongnam-si,
Gyeonggi-do, 463-400 Rep. of KOREA
Tel: +82.70.7147.8753 Fax: +82.31.8018.3740
www.hanwha-security.com

Hanwha Techwin America

500 Frank W. Burr Blvd. Suite 43 Teaneck, NJ 07666
Toll Free +1.877.213.1222 Direct +1.201.325.6920
Fax +1.201.373.0124
www.hanwha-security.com

Hanwha Techwin Europe

Heriot House, Heriot Road, Chertsey, Surrey, KT16 9DT, United Kingdom
Tel +44.1932.57.8100 Fax +44.1932.57.8101
www.hanwha-security.eu